

修猷館同窓会誌

2021

菁莪

令和3年 January/Seiga



表紙解説

修猷館は10年にも亘る建築工事により、校舎、講堂、体育館などを中心に全国に誇れる教育環境を手に入れました。しかしながら、グラウンドは安全面、衛生面、地域への砂埃対策など、多くの課題を抱えたままで改修が長年の懸案となっていました。

2019年、グラウンドの改修工事が決定し、県負担の工事に加え、財団法人修猷協会が費用を支援することで、グラウンドの人工芝設置や校内の外周走路などが2020年8月に完成しました。公立の高等学校としては、名実ともに日本一の教育環境施設となったものと自負しております。

この素晴らしい環境で、修猷生が文武両面で青春を謳歌してくれることを願っています。

修猷館同窓会誌

菁 莪



リンク先 URL

(<https://shuyukan-dosokai.com/seiga/>)

— 目 次 —

御挨拶	川崎隆生	1
天岩戸が開くとき		
御挨拶	芦原直哉	2
近畿修猷会会長就任挨拶		
随想／海外視点／		
修猷生のシリコンバレー研修	松尾正人	5
多文化社会に呪われたアメリカの現実	山田哲義	10
雑感	藤本昌義	14
世界中の修猷OG求む！	藤村ロース	16
書くことに救われてきた	相蘭淑子	19
／投稿／		
修猷館の二本木	荒金満	23
令和二年七月豪雨による鉄道災害と球磨川の治水対策		
	出田貴康	24
部活OB会		
修猷館野球部創部125年にあたって	眞鍋治彦	28
修猷館野球部創部125周年記念誌題字を揮毫して		
	平田道彦	32
キャリアアセセミナー		
『幻』のキャリアアセセミナー、『幻』の創立記念講演、		
『幻』のあれこれ。／同窓会総会準備・中止から再確認したこと	奥田竜子	34
資料館案内		38

花盛り同窓会		
同窓会総会中止でも「フレフレ修猷！」	柴田修	41
東京修猷会総会 延期の報告	岡武志	44
第45回近畿修猷会総会ご報告とお礼		
ーウイズコロナ時代のリアルとオンラインのハイブリッド型総会ー		
／支部だより／		
大分修猷会	井上正文	48
宮崎修猷会	光田靖	49
中京修猷会	川野靖史	49
東北修猷会	出納克彦	50
中国四国修猷会	河野浩	51
沖縄修猷会	山崎秀雄	52
／周年行事／		
卒業三十五周年同窓会を振り返って	藤村祥子	54
ノストラダムスと2000年問題	松尾光泰	56
学年一口連絡アンテナ		59
学校報告		63
同窓会の歩み		64
役員会・学年幹事会報告		65
修猷館同窓会会則		68
令和元年度 同窓会収支決算書		70
令和2年度 同窓会収支予算書		71
令和元年度 同窓会会費入金状況		72
修猷館同窓会役員名簿・各支部会長名簿		73
2021年度同窓会総会についてのご報告とご案内		73

御挨拶

天岩戸が開くとき



同窓会会長

川崎 隆生

(昭和44年卒)

コロナ禍で世界の扉が閉じ、政治も経済も文化もスポーツも凍てついてしまった2020年。心機一転を目指して新年を迎えましたが、完全終息のメドは立たず、開きかけた扉もすぐに閉じます。天照大神が乱暴者の弟に愛想を尽かして閉じこもり、世界を真つ暗闇にした天岩戸神話を連想してしまいます。修猷館同窓会は総会・懇親会を中止しました。全国の支部も総会開催を見送られています。現役は授業、部活動が一時休止となり、入学式に保護者は出席せず、卒業式には保護者を一人に限り、各教室で分散開催されました。

そんな自粛ムードに流されず、実現の道を模索したのが「大運動会」でした。他校の中止情報を耳にしながら千三百人の生徒と高島孝一館長をはじめ教職員は開催を決断、感染者を一人たりとも出さない知識と体力、精神力をぶつけ合いました。男子の「棒倒し」は女子と同じ「棒引き」に、応援コンテストは「声出し禁止」になりました。グラウンドは同窓の先輩方に蓄えていただいた資金で直前に完成した人工芝です。無観客でOBも保護者も見学不可でした。修猷新聞の一面を飾った全員マスクを着けたまま踏ん張る「7ピラ」の56個の瞳が彼らの覚悟を物語っています。ぜひご覧ください。

昨年5月まで8年間日本医師会会長を務め、コロナ対策の指揮を執った横倉義武先輩(昭和38年卒)は退任直後に対談集「和のこころ」を出版されました。ラグビーの名選手で日本代表監督だった平尾誠二さんとの対談はワールドカップ・イングランド大会直後の2016年正月。この大会で日本は予想に反して強豪・南アフリカを破り、19年の日本大会の大会成功に結び付けました。平尾さんは世界を驚かせた勝利について「変革型リーダーであるエディー・ジョーンズヘッドコーチのおかげだった」と語り、変革型リーダーは「自己中心的であり、理不尽な物とせせず、波風が立つてもやりきる力がある」と言い切っています。久留米大学医学部時代にラグビー部に所属していた横倉さんだからこそ誤解を恐れず、思いを真つすぐぶつけた言葉でした。この年の秋、平尾さんは亡くなりました。

コロナ禍は世界の構造から個人の生活や価値観まで変えようとしています。まさに大変革期。「波風たつてもやりきる力」を求める平尾さんの遺言は2021年の全世界に通じるメッセージです。

近畿修猷会は「ウイズコロナ時代のリアルとオンラインのハイブリッド型」と銘打って11月に支部では唯一総会を開催しました。芦原直哉会長(昭和45年卒)は「開催したいという会員の強い気持ちでデジタル技術が支えました」と言われました。文化功労者表彰者で京都大学の興膳宏名誉教授(昭和32年卒)の特別講演「律詩の形成に至る道」があり、オンライン参加の会員も聞き入りました。私にとっては50数年ぶりの漢文講義。小柳陽太郎先生から習った老子の「足るを知る者は富む」を思い出しました。

大運動会に新たな歴史を刻んだ現役生から地域医療に戻った76歳、中国文学の泰斗84歳……。世代を超えた修猷生とコロナの格闘が天岩戸を開け、ポストコロナの時代を担ってゆくことを期待します。

近畿修猷会会長就任挨拶



芦 原 直 哉

(昭和45年卒)

一昨年11月に開催されました近畿修猷会総会におきまして会長に選任されました昭和45年卒の芦原直哉でございます。幹事長時代の2年間は皆様にお世話になりました。感謝いたしております。会則に基づき「会長」を拝命しておりますが、実質は「代表世話人」を自認しております。他の役員とも同窓会を導くのではなく、会員の親睦の「お世話係」として運営をしていくことを確認しています。

新しい時代の同窓会組織に向けて

近畿修猷会は1976年9月10日に設立されました。チャーターメンバーをはじめ、その後も素晴らしいリーダーシップを持った諸先輩が会を導いて来られました。春・秋のイベント、9つのクラブ活動、総会などが活発に運営されているのはその賜物だと諸先輩方には感謝しかありません。

その一方で社会は大きく変革し、価値観も多様化しています。ICT、AI、DXなどの情報やデータの革新はもとより、組織もピラミッド型からネットワーク型やチーム制などに変革し

つつあります。また、働き方や家庭生活についての考え方も変化しています。卒業生の同窓会との関わり方にも変化を感じます。

今後の同窓会のあり方を考えた時、同窓会組織も個人の強いリーダーシップではなく、お互いが結びつくネットワーク型の組織に変革すべきであると考えています。それが「世話人型組織」です。

また、「世話人」の代表である会長は原則として再任せずに2年間の任期でバトンタッチすることを申し合わせています。より多くの方が会の運営に携わるようにすることにより組織がより活性化するのではないかと考えています。任期の2年間で特色ある企画や組織運営の革新などを実施するのが「お世話係」の役割となります。

組織運営の改革

この「世話人」型運営を基本方針として以下に述べる運営の改革を行なっています。

第一は透明性です。まず、役員(世話人)の運営は「ボランティアでの活動」であることです。役員の活動経費は出張旅費等を含めて全て自己負担としています。役員が襟を正して金銭管理をクリーンにすることが会員の皆さんからの信頼を得る第一条件だと考えます。また、幹事会などの会議の議事録は適宜HPにアップし、会計報告も詳細に予算実績管理、前年対比等を記載して総会で説明するようにしました。会員からの信頼で最も重要な要素はクリーンで的確な情報開示であると考えています。

第二はクラウドシステムの導入による情報共有化です。事務局がデータ管理するのではなく、会員自身が自分の住所や電話番号メールアドレスなどについて自己管理するシステムを導入しました。

システム導入により、会費納入手段も郵便振替のみであったものをコンビニ支払い、クレジットカード払い、銀行口座引き落としなどクラウドシステムを利用して多様化することにより、管理を容易にすることができました。また、本システムにより入金管理も複数人で相互に確認しています。

第三は収入源の拡大です。会費納入率を高めるとともに寄付金制度を導入したことにより、2年間で収入は38%増加しました。会費納入会員の約35%が寄付金をご提供くださっています。これは修猷を愛する館友が如何に多いかを示しています。

第四は会員への還元によるイベント等の活性化です。経費削減と会費収入の増加によってできた資金を総会、イベント、クラブ活動に助成金として配分し、参加者の負担を下げることで同窓会活動の活性化を目指しています。

ウイズコロナ時代の同窓会活動の試み

これらの改革と並行して、2020年度は年度幹事であるガングラン会（平成元年卒）の皆さんとイベントや総会等の企画を立て張り切っていたところ新型コロナウイルスのパンデミックに見舞われました。

春イベントは5月16日に新しくなった大阪城公園を散策し遊覧船でお堀を巡る企画をしていましたが、4月に政府の緊急事

態宣言が発出され、止むを得ず中止としました。

秋イベントは9月12日に徳島の鳴門にある大塚美術館で世界の名画を鑑賞するバスツアーを企画していましたが、これも7月に大阪府が新型コロナウイルスの第二波拡大の黄信号を宣言するに至り断腸の思いで中止を決定いたしました。

秋のゴルフコンペは実施したものの、総会をどうするか幹事会等で議論をいたしました。中止という決断は簡単ですが、これからどれくらい続くか判らないウイズコロナの時代の総会はどうにあるべきかを模索し議論を重ねました。

結論として、リアル会場とオンラインを結んだハイブリッド型総会とすることにいたしました。しかし、懇親会につきましては大阪府が5名以上の飲食を伴う会合を控えるようにとの要請を出している状況を鑑み中止を決定し、講演会と総会のみの実施といたしました。

毎年お招きしている来賓の皆様には遠方よりご臨席賜るのは忍びなく、オンラインで参加して頂くか、ビデオメッセージを予め頂くこととしましたが、修猷館高校の高島館長先生、本部同窓会の川崎会長にはご臨席を頂けることになり、とてもありがたく感謝いたしております。

2020年度は本部を含め各地区の総会はほとんど中止となったと聞いております。近畿修猷会は11月の総会ということもあり、この様なリアルとオンラインのハイブリッド型総会を開催することとなりました。本総会がウイズコロナ時代の同窓会総会開催の一つのモデルとなれば幸いです。

2021年度の取り組み

会長は再任しない方針ですので2022年度は新しい役員体制となります。私の任期も残り1年ですので、この1年は新体制に向けてのバトンタッチとウイズコロナ時代の同窓会活動の確立の二つが主たるテーマとなります。

第一の新体制構想は幹事会等で議論をしていくことになりませんが、私案としては会則を変更して世話人型のネットワーク型、チーム制を取り入れたフラットな組織としたいと考えています。第二のウイズコロナ時代における同窓会活動については創意工夫によりコロナ禍を克服する企画を立案し実施したいと考えています。2021年度の年度幹事は平成29卒の「卒献会」の皆様がイベント、総会を企画運営します。

2020年度は春・秋イベントを断腸の思いで中止致しましたが、卒献会の皆様はコロナ禍におけるイベントを企画してくれています。春のイベントは5月22日（土）に「京都住民がツアーガイドをする京都街歩きツアー」を企画しています。ソーシャルディスタンスを保ちながら少人数グループに別れて地元の方によるガイドで街歩きをします。

秋イベントは文化的な企画とする本会の方針に沿って、2021年9月11日（土）に「薬師寺拝観と法話」を企画しています。この企画もソーシャルディスタンスを確保しての実施です。

両イベントとも参加者全員での昼食会が行わず、年次別など少人数で自由に食事をとっていただく予定です。全体での昼食

会ができないのは残念ですが、現在の状況ではリスク回避を優先します。

修猷館卒業生は高校時代に良き友人に恵まれて人格識見を相互に高めることができたと思います。卒業後も強い絆で結ばれ、同窓会等を通じて交流を深めて啓発し合うことにより、各分野に於いて存分にその能力を発揮し社会に貢献することができていくのだと思います。

私も人生の節々で館友に助けられ母校、友人、同窓会には感謝あるのみです。コロナ禍においても、この館友の絆を深める交流の場としての同窓会を何としても再構築しなければならな

いと考えています。

疾風に勁草を知ると言います。コロナ禍という疾風に修猷館の卒業生はそれを克服する勁草たらんとそれぞれの社会で活動していることと思います。特に医療現場などで新型コロナウイルスに立ち向かっている館友も多いことと思います。彼らに感謝するとともに私たちも負けずに新しい社会の再構築に向けて頑張つて参りましょう。

今後とも近畿修猷会活動にご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

随 想

海外視点

修猷生のシリコンバレー研修



松 尾 正 人

(昭和30年卒)

私は2014、15、17、19年の4回にわたって、4日間の修猷生のシリコンバレー研修を担当するという減多にない経験をさせてもらったのでここに紹介させていただく。この研修には北カルフォルニア修猷同窓会の皆さんにも多く支援をしていただいたことを述べておきたい。

修猷生の海外研修は1998年頃から始まったようだ。2014年に初めて私共が関わるまでの16年間はすべて東海岸で行われ、ニューヨーク修猷会の皆さんが継続して面倒を見てくれたとのことである。ご尽力に心から感謝と敬意を表したい。2014年から東海岸と交互に行うことになったこの西海岸研修は、シリコンバレー（SVと略）で4日間の後、ロスアンジェルスで4日間というスケジュールである。ロスアンジェ

ルス修猷会の皆さんも工夫を凝らしたスケジュールを作って後輩たちを歓迎している。

さて、私は日本の化学会社の技術駐在員としてアメリカのニューヨークとカリフォルニアに合わせて45年滞在し、もっぱら新事業開発に関わってきた。最後の15年間は、並行して九州大学のSV研修を企画実行した。その中で修猷生のSV研修に関わることになったわけである。そこで修猷生にどんな研修をすればよいのかと色々と考えた。SVはカリフォルニア州北部にある一帯を言うが、東海岸のニューヨークやワシントンDCのような華やかな観光スポットはない。元果樹園のフラットな土地があるだけである。しかしご存じのように、SVはいまや世界のイノベーションの中心地であり、グーグルやアップルやテスラに代表される数多くの成功したスタートアップが生まれた自由な発想の地域である。私もSVでエキサイティングな毎日を送っているの、修猷生にもその同じ感動を経験してもらいたいと考えた。そのためにはまずはイノベーションとは何かを学んでもらいたいと思った。イノベーションこそこれらの日本の若者に身に付けてほしいパワーだと思うからである。そしてイノベーションを起こして大きくなったグーグルやアップルのほかに、ユニークなイノベーションを起こして成長中のスタートアップ企業などの実例を見て、イノベーションの重要性を学んでもらうこととした。

さて、イノベーションの本質と重要性については修猷生たちがSVに到着直後に私が講義を行った。また、企業や大学訪問については左記の訪問をアレンジした。

Intuitive Surgical

日本でもよく知られてるDa Vinciという手術用ロボットを開発した会社。新しい技術で新しいビジネスを作り上げたイノベーション企業の最たるものである。

One Concern

スタンフォードで研究した技術を用いたスタートアップ企業で、まだ起業して2年位の出来たての会社。訪問してメンバーと直接話して、スタートアップの雰囲気や皆の考え方を学ぶ。

Nikkei SV Office

日本のビジネス情報のトップである日経新聞がSVをどうとらえているかを学ぶ。

Miyako Capital

著名な日本人ベンチャーキャピタリストの菅谷常三郎社長からベンチャーキャピタル(VC)がどんな考えでスタートアップを支援し大きくしているかを学ぶ。

Plug and Play Tech Center

スタートアップに部屋を貸したりVCを紹介したりして大きく育てる組織。入居企業に話を聞く。

Stanford University

SVのイノベーションの中心の大学。素晴らしいキャンパス

を見て、研究室を訪問して、研究者や学生から話を聞く。

Google, Apple など

すでに確立されている大企業のキャンパスを訪問して雰囲気を感じてもらう。

こういう企業・大学訪問だけでもそれなりの意味があるが、修猷生なのでもっとチャレンジングな研修にできないかと考えた。その結果、トップレベルの米国人の前で、英語でプレゼンする経験を加えることとした。米国人の前で直接自分の意見を述べ意見交換することは日本ではまず経験しないことだろうし、本場の英語とは何か、本場のプレゼンとは何か、についても経験してほしいと思った。実は私はその半年くらい前に、ある会で John Roos さんと知り合いになる機会があったのでこの方をお願いしてみようと思った。ご存じのように Roos さんはSVの最大の法律事務所の社長をつとめた後、オバマ政権時代に駐日米国大使として日本に4年間駐在した優れ人である。原爆の広島や若者の教育に強い関心をもっていることで知られている。そこで思い切って「今度日本の高校生が来るが会って話してもらえないか」とメールで直接頼んでみた。うれしいことに二つ返事でOKしてくれた。SVの偉い人は本当にえらいなと思った。こうして2014年と2015年の2回にわたって修猷生はRoosさんの前でプレゼンすることになったのである。第3回目からはRoosさんが忙しくなったので、インド系のベンチャーキャピタリストの、これまた優れ人の、Vijay

Shingh ゃんにお願いすることとした。

しかし、その準備が大変であった。Roosさんに何をプレゼンしたのかを参加修猷生に議論してもらい、事前のメールのやりとりで日本語原案を作らせ、英語で書かせて、それをチェックした。日本語のあいまいな表現や結論を後に書くやり方などをすべて修正してもらったが、到着時には話したい内容については英語までは出来上がっていた。SV到着後、夕食後の時間を使って口頭発表の練習に集中した。練習は長時間にわたったが、皆熱心にフォローしてくれた。



John V. Roos

2009年から2013年まで駐日米
国大使。2010年8月6日には、広島
平和記念式典に出席した初の現役駐日米
国大使となった。大使在任中の2011
年3月11日に東日本大震災と福島第一原子力発電所事故が発生。大
使は、この未曾有の複合的な大災害に対する日本の対応を支援する
米国の活動を主導した。また、この危機の後に、官民パートナー
シップ「TOMODACHI イニシアティブ」の創設も主導した。
TOMODACHI イニシアティブは、5000万ドルを超える
資金を集め、40以上の交流プログラムを設立した。

当日、Roosさんが一人でふらっと現れたのには皆びっくりしたようだ。選ばれた2人が代表としてRoosさんの前でプレゼンを行った。修猷生が議論したいと提案してきた内容はかなりレベルが高く、2014年はRoosさんの広島訪問、東日本大震災への支援活動、日米の文化の違いなどであった。2015年とはなんと憲法9条と集団的自衛権を議論したいという。これには私も驚いたし、本当にやるのかと確認したくらいだった。具体的な質問内容に関しては到着後に皆に議論をさせて、本当に何を言いたいのか、何を聞きたいのか、を明確にしてもらった。修猷生はこの難しい課題にまともに向き合い、議論して、結論を出してくれた。発表者二人は初めて米国人の前で、英語で、しかも有名なRoosさんの前でプレゼンする事に興奮し、戸惑い、混乱もしていたようだが、本番では見事にやってのけたし、ほかの修猷生も割と気楽にどんな質問をしたのには感心した。一方、Roosさんは偉ぶらずに、初めて会う日本の高校生たちを一人前



第1回目のRoosさんとのミーティング (2014)

の大人としてまともに対応してくれたのには修猷生も私も大変感激した。特に、集団的自衛権については「それは日本の問題だから貴方たちが自分で考えて決めることだ。ただ北朝鮮がアメリカに向けてミサイルを撃ったら日本の上空で落としてもいい」とアメリカ人は思っている」といわれて、皆愕然としていた。

私は、先に述べたように、2006年から15年間、九州大学生のSV研修を主宰してきた。これまでに1週間ないしは4、5週間の研修プログラムを作り、1100人を超える九大生をSVに連れてきて、主として「グローバルに活躍できる」、「イノベーションを起こせる」人材の育成に専念してきた。その中で九大生や修猷生を含む日本の若者の優れたところと課題と感ずるところが割とはつきり見えてきた。私の見方はあくまでも海外の若者と対比してのこと、あるいは日本の若者が海外で仕事をする時のこと、を考えているので少し偏っているかもしれない。それをリストすると以下になる。

優れているところ

能力的には極めて優秀で教える理解が早い
親切、丁寧、仲間同士の思いやりが強い
学びたいという意欲が極めて強い

課題と感ずるところ

自分の意見を述べるのが少ない、質問をしない
自分でものを考え、自分で何か作り、提案することが苦手だ

日本人以外との付き合い方をほとんど知らない

専門知識は強いが、知識範囲が狭い

英語レベルが低すぎる

特に、「人から学んで覚えることが一番大事」という従来の考えにとらわれ、「自分でゼロから何かを作り出す」、いわゆる「Zero to One」の重要性をあまり考えていないことが一番の課題と私は感じている。そしてそれは私どもの世代の責任のうな気がしている。

ここで日本国の1960-1990年頃までの高度成長はなぜあんなにうまく達成できたのかを考えてみよう。戦後全てのビジネスや技術は欧米を中心とする外国から技術導入したことは皆さんよく覚えているであろう。技術導入を受けければ、問題の解決策や将来の戦略などは導入先の会社が教えてくれるので、自分で解決策を考え出すこと、あるいは将来の戦略を考え、その必要性と重要性が大事にされてこなかったように思う。その習慣が文化のレベルになり、修正されることもなく現代に引き継がれているのではないだろうか。いまや「Zero to One」が出来なければ個人の成長も国の成長もない時代が来ているの

に、それができない、やらないことは致命的な欠陥になっているのではないだろうか。これでは日本国の将来が大きく懸念される。そしてこれを変えることができるのはこれからの若者しかないことは自明のことであろう。若者に新しい考え方や行動指針を教育し実践させることは極めて急がれる大事なことと思う。しかし、私が45年ぶりに日本に帰国して気が付いたことだが、日本国はその重要性にあまり気が付いていないような気がする。その一つの表れともいえるのが、日本国中の組織の多くが依然として高度成長期に活躍された方々によってリードされていることである。とても気になっている。

最後に私の自己紹介を簡単に述べる。私は昭和30年に修猷を卒業し、九大工学部応用化学大学院を出て日本の化学会社に就職し、二成分系ポリマーの研究で九大から博士号をいただいた。その後ご縁があつて1969年から米国NJ州にあるベル研究所で2年間の研究生生活を送るチャンスに恵まれた。続けて、その化学会社のニューヨーク駐在員となり22年間化学製品の新事業開発に関わった。その後6年間の日本本社での勤務を経て、1999年より今度はカリフォルニア州のSVにオフィスを開き、医療器材の新事業探索などを行い21年間滞在した。最後の15年間は、会社の仕事と並行して、九州大学カリフォルニアオフィス代表として九大生のSV研修を実行してきた。2020年4月にリタイヤし、思うところあつて7月に福岡に帰着し、修猷近くの百道1丁目に定住している。



若いスタートアップ企業、
One Concern社の技術者と
会話する修猷生〈2017〉



Vijay Shinghさんの前で
プレゼンする修猷生〈2019〉

多文化社会に呪われたアメリカの現実



山田 哲 義

(昭和49年卒)

大学受験に二度も失敗した私は、『日本で浪人するよりも、海外で勉強して来い!』と、父親から勧められてアメリカへの留学を決行。…と言うと、少しは人間きが良くなるのだろうか、実のところは体裁を重んじる父が下した絶対的な命令であり、いわゆる遠島の刑に処されたと言うのが本当の経緯である。福岡発ロサンゼルス行き飛行機に乗らされたのは、修猷館を卒業した翌年の一九七五年のことだ。高校を出たら東京での大学生活にあこがれていた訳で、私はここに来たくて来た者ではない。いきなり異文化社会のアメリカに放り出されて、一時期ふてくされた事もあったが、カレッジに通いながら会社を興し商売を始めたりもした。長い間なかなか好きになれないアメリカだったが、いつの間にか慣れ親しむことができるようになり、今では自分に相応しい国ではあるまいかと思う。合理的な社会の仕組みが好きだし、今では少なからずアメリカの事に精通する者の一人ではないかと自認している。(治安は別にしても) 気候や文化などもロサンゼルスは最も暮らしやすい街だと

思っている。いつか成功でもしたら、故郷に錦を飾り凱旋帰国する気概で生きてきたのだが、このままだと自分の骨はこの地に埋めることになりそうな気がする。しかしながら反面、我々日本人には理解し難くて全く道理に合わないアメリカの側面がある。激増中のヒスパニック系、訴訟社会、高額過ぎる医療費など、慣れ親しむ事なんて到底できない諸問題を考察してみたい。

増加するヒスパニック系人種

アメリカの出生率を人種別に見ると、白人も黒人も二人以下だが、ヒスパニック系は三人近くあり多産の傾向にある。加えて、ヒスパニック系の初産の平均年齢は二十才と若く、人口増加の速度は著しく速い。例えば二〇〇〇年と二〇一〇年のアメリカの国勢調査によると、一〇年間で増えた総人口は二億八千万人から三億一〇〇〇万人と約三千万人の増加で十%増となったが、ヒスパニック系だけを見ると三五〇〇万人から五〇〇〇万人となり四十三%も増えた結果となった。加えて、不法移民として越境してくるヒスパニック系が後を絶たないため、拍車をかけて人口激増の要因になっている。アメリカとメキシコは陸続きで、その国境の長さは全長三二〇〇キロメートルに及ぶ。福岡から東京までの距離の約三倍に等しい。メキシコの南側には、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラスなどの貧困の三ヶ国が隣接しており、アメリカへの越境を試みる『移民キャラバン』と呼ばれる集団のニュースをよく見聞き

する。中南米諸国ではやや裕福と言えるメキシコの平均年収は約一七五万円でアメリカ（七一五万円）の四分の一程度である。ちなみにグアテマラは約四四万円でアメリカの十六分の一程度となる。危険な内政事情や収入の低さがアメリカへの逃亡の主たる理由らしい。正確な数字は明らかにはなっていないが、越境に成功してくる数は年間二〇―三〇万人ぐらいではないのかと聞いた。国境付近での逮捕者数は年間約五〇万人というので、毎日のように捕物帳が繰り返し執り行われているのが現状だ。越境した後に捕まる事なく都会に移動できると、既に住み着いている知人や親戚を

頼れば、とりあえず住む所にも仕事にも困らないという。彼らは非合法なので足元につけこまれ低い賃金の職に就く。農場、食品加工工場、飲食店……等々、彼らは朝早くから晩遅くまで、がむしゃらに働くので頼もしい即戦力になるという。越境した仲間同士で狭いところに住み質素儉約しながら余剰金を捻出している、本国に残してきた家族宛てに送金する。たとえ少額といえども彼らの本国では大金に値するので、大家族だつて充分



米国を目指し北上中の移民キャラバン

に養える金額になるという。国境に高い壁を建設しようが、彼らはあの手この手を駆使して断続的に越境してくる訳で、不法移民が著しく減少する事なんてあり得ないだろう。私は冒頭で増加するヒスパニック系を問題視したが、毎朝安くて美味しいオレンジジュースやハム・エッグにありつけるのは、まさしく彼らの安い労働力のおかげである。ついつい仏さまに感謝するのを忘れても、内心は不法移民達に深く感謝しながら、『いただきます』と、手を合わせる……全く矛盾している自分がいる。

訴訟社会

鶏が先か？卵が先か？のようなハナシだが、アメリカの弁護士の数と多い訴訟件数は共に因果関係にあるかも知れない。日米の弁護士数を比較してみると、日本の約四万人に対しアメリカにはナント約一三〇万人もいるらしい。従って経験と能力の優劣が生じ、なかには食っていけない安物弁護士も多く、街中には『無料相談なので一報してネ』とか『成功報酬ですヨ』などと記された宣伝看板があちこちに見られる。完全成功報酬だと負けてもタダなので、ダメ元で裁判を起こすこともあり得る訳だ。民事の訴訟件数だけでも年間二〇〇〇万件以上とも言われており、日本は十五万件前後らしいので、桁違いに多い。何かあればすぐに、『アイ・ウィル・スー・ユー!!』と怒鳴り散らし、訴訟は日常茶飯事だ。その昔、日本でも話題になったニュースだが、マックのドライブスルーで買ったコーヒーを車中でこぼして火傷し、表示ミスを訴えた原告側が数億円の賠償

金を得た訴訟（マクドナルド・コーヒー事件）は、あまりにも有名なハナシである。日本はほぼ同一民族で構成された国家なので、ある程度は以心伝心で相手を理解し良心を信じる性善説に基づく見方であり、誰かに裁いてもらうことなく二者間で円滑に解決できる場合も多い。アメリカは一二〇種以上の多人種から構成されており、また彼らは言語も文化も違いそれぞれが異なった価値観と宗教観にあり、相違する社会規範にある。従って、我々日本人とは全く異なった道徳・倫理感を持っており、先ずは訴訟してアメリカの法律というモノサシで善悪を決めたほうが早い解決方法だという考え方になる。日本では和合に重きを置いて、事なかれ主義を尊ぶ『集団主義』の典型だが、アメリカでは自分を真っ先に最重視する『個人主義』の典型だろう。自分が正しいと信ずる権利の主張は声大にして提唱することが美德なのだ。私はこの日までに、『訴えるぞ！』と何度とも言われたことがあるが、（いずれ免疫化されるのだが…）この文言の響きに慣れるのにはやや長い年月を必要とした。私の場合は四十年間ほどの会社経営で、民事訴訟された事は僅か三・四回だけであり、幸運にも少なかったと思う。逆に、対お役所つまり州政府や連邦政府に対し、例えば税務などの行政処分に対しどうしても納得できずに、原告の立場で行政事件訴訟を起こした事は何度もある。計算してみたことはないが、弁護士に使った費用を累積すれば、きっとびっくり仰天するような高額な数字になるであろう。

高額過ぎる医療費

アメリカの医療費は、想像を絶するほど高い。例えば、三ヶ月ごとに行く定期健診で採血される検査代は八万円もする。大腸内視鏡検査や胃カメラ検査は約三十五万円だと言う。もし新型コロナウイルスに感染すると、仮に四日間入院したとしてその治療代は約五百万円ほどかかるそうで、トランプ大統領は僅か三日間で退院できたようだが、チョツと長引いて一週間でも入院しようものなら、ざっくり八百万円ぐらいになるそうだ。数年前になるが、息子が風邪をこじらせて肺炎になり、計四週間入院したとき、届いた請求書書きを見て腰が抜けるほどビックリしたのだが、病院施設からの請求額は五千三百万円だった。『この金額は、もし貴方の保険会社が払わない場合には貴方が支払うべき金額ですよ。』との一文があるので多少の不安は解消されるのだが、保険会社が処理済みと判明するまでは気持ちが悪く、スッキリ晴れる事はない。医療費が桁違いに高いので、連



自宅近所の病院

動して保険代金も桁違いに高い。日本には社会保険や国民健康保険のような国民皆保険制度があるが、アメリカにはない。公的健康保険はあるにはあるが、メディケアと呼ばれる六十五才以上の高齢者を対象とした連邦政府が運営する制度と、メディケイドと呼ばれる低所得者を対象にした州と連邦政府が運営する制度だけだ。なので、六十五才未満の国民は、民間の保険会社が販売する健康保険を任意で購入し加入することになる。これ等は民間会社の商品であり保証内容もそれぞれ異なり、購入者が各自で納得するプランを各々が選択する事になる。およその保険料は、日本のように収入によって保険料が決まる仕組みではなく、加入者の年齢にスライドして高齢になるほど高額になる。保険料は州によって異なるようだが、例えば私が住むカリフォルニア州の場合だと、月々一人あたりの代金は三十才だと五万円、五十才だと八万円、一番高いのは六十四才で十一万円ぐらいだろうか。私は六十五才になったので念願のメディケアに加入することができたが、それでも毎月支払う保険料は二万五千円に値下がったというだけで、日本に比べたら依然と高い。(日本の国民健康保険だと無収入の場合、月々二千円程度でしようか?) アメリカにも皆保険制度を整備しようという試みは、オバマケアを始めとしてこれまで何度もあったが、既得権益を守ろうとする保険・医療業界のロビー活動によって、ことごとく失敗してきた。

現在の日米間は親密な同盟関係にあり、政治や経済が密に連

携し更なる信頼を構築中だという。その影響を受けてか、あちこちにアメリカの制度が日本にも浸透してきているような気がする。良い制度は取り入れるべきだが、受け入れてはいけない制度はきっぱりと遮断すべきだと思う。例えば、外国人労働者の受入れ問題、司法制度の改革、医療保険制度の見直しなどが国会でも論議されていると聞く。軽い判断でアメリカを追隨してはいけない。我々日本人は、注意深くしつかりと物事の真偽を見極める構えでいて欲しいと、遠くアメリカから願う次第だ。

注：一ドルは一一〇円のレートで、全て円換算で表した



藤 本 昌 義

(昭和51年卒)

当社は毎年修猷館高校から総合商社の仕事を知ってもらう目的で研修生を受け入れてきております。さすがに今年はコロナの感染拡大、ちょうど東京での第2波の拡大時期と重なったこともあり、見送られることになり残念な思いをしましたが、毎年修猷館の後輩たちに会うのは楽しみです。研修では、当社が開発した商社のビジネスを体感できるゲームを高校生にやってもらいつつ、他の会社との提携、交渉の醍醐味を味わってもらっています。

もちろんこのような研修生を受け入れている理由としては、後輩に商社ビジネスを知ってもらい将来的には優秀な修猷館卒業の社員を獲得したいという思いもあります。

そういう中で、一昨年後輩たちに将来どういう職業に就きたいのか聞いたときに、複数名の後輩から将来は起業したいという言葉を聞いて、時代も変わったなと実感した次第です。

私は1981年に日商岩井に入社いたしました。最初につ

いた仕事は日本の鋳物や鍛造品、エンジン等々自動車、農機、建機部品を日本から輸出するビジネスでした。その関係で1985年10月に日商岩井米国会社のデトロイト店に赴任しました。米国生活の中で日本との違いを感じたことは、アイオワ州デモインのCase Corporationのトラクター工場の購買課長を訪問した時のことです。その購買課長からこの工場が来年閉鎖になるという話を聞いて、その時当然私は、この購買課長は他のCase Corporationの工場の購買課長か何かで転勤すると思って、次の転勤先はと聞いたところ彼はデモインの町に残って、新たな就職先を探すという回答でびっくりした覚えがあります。

終身雇用の日本人なら会社を変わるということに抵抗がありますし、こういう場合まず転勤というのが当たり前とと思っていたのですが、アメリカでは、その町に残るという選択をするのかと不思議でした。今になって思うと地元アイオワ州立大学を卒業して、地元の会社に勤め、その地縁を大切にしながら生きていくという人生が、どちらかというと当たり前で、会社はその地元にあったというだけで、大きな意味は持っていないのだということが判ってきました。

そういえば、USAでは会社のHQがすべてNew YorkやワシントンD.C.にあるというわけではなく、Case Corpはウィスコンシン州のラシーンという小さな町に、Rockwell InternationalのHQは、航空機メーカーのノースアメリカンと

合併して、カリフォルニアに移りましたが、AXLE等の自動車部門はペンシルバニア州のピッツバーグに、あの有名なキャタピラー社はイリノイ州のベオリアというシカゴから車で3時間ほどの小さな町にHQがあります。もちろんゼネラルモーターズやフォード自動車はデトロイトあるいはデトロイト郊外に本社があります。

米国では少なくとも、州立大学であれば、その州出身者に学費の恩典があることより、自分が生まれ育った州の州立大学を出て地元で就職するというのがごくごく当たり前で、みんながハーバードやスタンフォードなどの有名大学を目指すわけではなく、またニューヨークやワシントンでの就職を目指すわけでもないこと。つまり人生設計に対する価値観が多様化しているというところがあるのではないのでしょうか？

一方日本の場合は、皆良い大学、良い会社への就職というのがほぼ大方の人間の価値観となっていて気がします。先ほど修猷の後輩の話をしましたので、現在はもしかしたら違っているのかもしれませんが、少なくとも我々が高校生、大学生だったころはそういう価値観の中で育った気がします。そうなれば、東京や関西の有名大学、あるいは地元の国立大学に進学、それからほぼすべてといっていいぐらい大企業の本社が東京に集中しているため、東京での本社採用を勝ち取るというのが両親含めた子供の価値観で、かなり単一の価値観かなと思います。

この原因を考えてみますと、今でこそ格差社会が広がっているといわれていますが、戦後復興から、一億総中流といわれて久しく、日本はかなり平等な社会です。だから、皆会社に入ってよいいどんでスタートして、社内の生存競争が勝ち抜いて出世していく、その意味では皆に平等に出世の機会とは与えられている社会なのではないと思います。

一方、米国は格差社会です。米国ではジョブ型採用が一般で、大学を卒業して会社に入ってもジョブがきっちり規定されており、時間がたてば出世するという仕組みではありません。大学を出て就職しても、購買担当であれば、多くの場合一生購買担当であり、収入を上げるには自分の経歴を別の会社売り込んで転職して購買課長や部長という職を勝ち得るしかありません。また米国の経営者というのは、若い時から帝王学を学ばされてきた一握りの人間にしか機会があたえられておらず、皆に機会が平等に与えられているわけではないのです。

機会均等でないからこそ、米国ではお金持ちになろうとすると自分で起業するのが早道だという考えにたどり着くのではないのでしょうか。マクドナルドもケンタッキー・フライド・チキンも米国の個人が創業者であり、当社が関係の深いナイキもフィル・ナイト氏が一代で築き上げた会社です。

長々と書きましたが、修猷館高校の後輩から起業したいとい

う話を聞いたときには、私たちの時代、皆が一流会社を目指した時代から変わってきているんだなと実感しました。

そういう若者を支援するためにも、今私たちの世代ができることは起業したいという若者に、もう少し資金面で支援できる仕組みを作っていかなければならないということ。

ナイト氏の自叙伝であるシユードッグという本に書かれています、1975年にカリフォルニア銀行からUS\$1millionのお金を引き上げられそうになったところを、当時の日商岩井米国会社ポートランド支店の営業担当の皇（すめらぎ）氏と財務担当の伊藤氏がカリフォルニア銀行への返済を立て替え、融資を実行したというくだりがあります。今のコンプライアンスから考えると、現場でこのような判断ができたということはかなりのリスクですが、（実際に伊藤氏はのちに懲戒になりかけたということですが、上司に救われたとのこと）日本という国がもつともつと発展していくためには、若者の起業を促し、大企業に就職することだけが人生ではないことを広げていかないと強く思います。

その一助になればと思います、当社でもある一定の資金枠の中で、スタートアップ企業に投資できる制度を作り、運用しています。日本もジョブ型採用への移行が叫ばれている中、日本の若者もどんどん起業して、いろいろな会社を作ってほしいと切に願います。

世界中の修猷OG求む！



藤村 ローズ

（平成10年卒）

修猷を卒業してから20年以上経ち、私は今、遠く離れたオランダに住んでいます。2004年に中国・北京に留学し、勉学を修めて帰国するつもりが帰ることなく、気が付けば海外生活17年目となりました。その間に国を越える引越しを何度かしてきましたのですが、その度に思うことが「またゼロからスタート」ということです。新しい土地で新しい経験ができることはとても魅力的なことですが、やはり骨の折れることです。言葉も文化も違う土地で翻弄されることもしばしばです。

よく欧米は男女平等な社会だと言われていますが、本当にそうでしょうか。日本でも1985年に男女雇用機会均等法が制定されて以来、改正が重ねられ、徐々に公平な社会に近づいてきている実感はあるものの、まだ十分ではないという女性はいでしょう。そしてそれはヨーロッパでもそれほど変わらないのではと感じます（ただし夫の家事能力には大きな差があります）。実際オランダではパートタイムで働く人の割合は男性が26.8%、女性は76.6%となっており、多くの女性が子育

でのタイミングでフルタイムからパートタイムに切り替えるのです。

これは社会のせいだけではないのかもしれませんが。妊娠・出産できるのが女性のみにという生物学的な違いがあるからです。子育ては母親でなくてもできますが、特に子供が小さい間はホルモンの影響で心身が子育てに最適化されています。子供を持たなくても女性のキャリアは一筋縄では行きません。一生独身で子供がいなければ男女差はあまりないかもしれませんが、家族を持った時にどのようなキャリアを築いていくか悩む女性が多いのではないのでしょうか。

そして海外に住むとなると、ハードルはさらに上がります。ビザや家族のことなど、日本に住んでいる時には考えもしなかった問題に遭遇します。パートナーの駐在に帯同した場合は働くことが許可されない場合もあります。何でも便利な日本と違って、日常生活を営んでいくのにも手間がかかります。子供がいたら毎日学校への送迎が必要ですし、異文化生活での心身のケアもとても大切で手が抜けません。和食を作るために時間をかけて遠くまで材料を買うに行くこともしばしばです。母親はなかなか自分のことをする時間すらありません。運良く現地で仕事を見つけることができたとしても、パートナーの理由でまた引越になることもあります。このように、さまざまな理由で多くの優秀な女性たちが働くことを諦めざるをえない状況を世界のいろいろな場所で見えてきました。私も決して優秀とは言えませんが、そういう中の一人でした。

そのような状況がなんとかならないか、世界のどこに住んでも続けられることはないだろうかという思いがずっとありました。もちろん子供は可愛いですし、日本ではできないような貴重な経験をさせてもらっています。でも一人の人間として考えた時に、このままでいいのだろうかという心の葛藤がずっとありました。子供はいずれ巣立ちます。細々とでもいいから社会の一員として活動し続けていたい、してはいけなという静かだけれど確固たる気持ちはずっとありました。

まず私に転機が訪れたのは、子供が小学校に入った時。当時マレーシアに住んでいたのですが、子供が学校に行っている間に仕事復帰することができました。とても充実していたのですが、夫の理由でまた引越しとなります。そしてオランダに住むことになりました。新しい国に來ると、家族が落ち着くまで自分のことは後回しになります。南国のマレーシアから北国のオランダへの引越しで、息子が完全に慣れるまでに1年以上かかりました。

ようやくある程度まとまった時間が取れるようになってきた時、起業を決断します。これが次の転機です。オランダには外国人でも起業しやすい環境があったのです。就職も考えましたが、通勤含め学校の送迎に間に合う仕事は見つかりませんでした。自宅で仕事をすれば、自分のペースで子育てしながら続けることができます。まずはマレーシア時代から携わっていた国際教育関連の事業から始めることにしました。教育移住ブームの影響もあり顧客は少しずつ増えました。また、会社のサイト

作成や運営をしているうちにそちらの方に興味が湧き、仕事の合間にプログラミングを学ぶことにしました。その卒業制作で制作したのが、今手掛けている「世界ウーマン」というサイトです。

このサイトは「世界で働く女性のためのポータルサイト」で、世界各地からの情報発信、イベントの開催、コミュニティ運営などを行っています。2018年からはじめて、登録者の輪は少しずつ広がっており、現時点で33か国300名以上の方にご参加いただいています。

2020年8月の2周年記念イベントでは「オンライン世界一周旅行」を開催しました。コロナ禍の中で多くの人が旅行できない中、マカオ、シンガポール、オーストラリア、トルコ、イギリス、ブラジル、アメリカの7カ国と日本をインターネットで繋いで現地のおすすめスポットを回るツアーを開催しました。世界中から約100名の方に楽しんでいただけたと同時に、出演・制作サイドにとっても素晴らしい経験となりました。日本に住んでいなくても、いつでも日本とつながることができる、役に立つことができる、と確信できた瞬間でした。

世界ウーマンにはさまざまな本業を持つ海外在住の女性たち、そして日本在住で海外にまつわる仕事をしている女性たちが参加しています。このコロナ禍でオンラインイベントが一般にも浸透し、世界中が厳しい環境の中、情報交換することでお互い支え合い乗り越えてきました。日々世界ウーマンを運営していると思うこと、それは「女性はつながることにより力を発揮す

る」ということです。優秀であつてもあまり競争を好まず、協力して物事を成し遂げる「掛け算」の結果を出しやすいのが女性だと思います。ともすれば孤独になりがちな海外生活の中で、同じような境遇にいる仲間を見つけて支え合ったり、今まで出会えなかったような人との出会いで刺激を受けたりすることも少なくありません。世界のどこに住んでも仲間と一緒に切磋琢磨しながら、自己実現していくことができたら最高ではないでしょうか。海外在住女性の形態も多様化しています。以前は国際結婚、配偶者の帯同という形が圧倒的でしたが、自身が駐在員として企業から派遣される人や海外就職、起業する人も増えています。でも共通するものはやはり「つながることにより力を発揮できる」ということだと思います。経験や悩み、スキルなどを共有することで、お互い支え合うことができると思っています。このサイトがそのきっかけとなればという思いで運営を続けていきたい所存です。

書くことに救われてきた



相 蘭 淑 子

(平成12年卒)

去年9月のことだった。第26回小学館ノンフィクション大賞の最終選考に残ったという連絡がきたのは。普段この携帯が鳴るのは、子供の学校連絡か何かの宣伝くらいである。「Hello」と出た先に「もしもし」という声が聞こえたとき、実家の母に何かあったのではなからうかと身構えた。ここはアメリカで、めったに日本語など聞かないからである。その日は土曜日で、日本語補習校に通う娘のことであろうと担任の先生と電話で話していたところだったので、小学館の方から連絡を受けながら、小学校と小学館が混ざり、これは現実のことなのか、それとも何か勘違いをしているのか頭がこんがらがり、どこか浮遊したような気持ちで階段に座って編集者の声を聞いていた。電話を切ったとき「何の電話？」と夫に聞かれ、「本当かよくわからなんだけど最終選考に残ったって話」と答えながら、これはやっぱり間違い電話だったんじゃないかと思った。それくらい現実離れしていたのだ。そのあと担当編集者からメールが来て、文面で読んで初めて意味を理解した。嘘じゃなかった。

私は2017年からロサンゼルスに住んでいる。自分の留学だとか会社命令の駐在だとか、そのような第一人者的な理由で前向きに渡米したのではなく、この地で現地就職した夫に帯同して半年遅れでこの地に来た。私にとつて渡米は退職を意味したので、キャリアの喪失と同義であり、ここで平常心で生活をし始められたのは一年前くらいからじゃないかと思う。それくらい薄い後悔が寄せては返さざ波のなかで暮らしてきた。

渡米後、働き口を探すのに躍起になった。知り合いもない、英語もできない、子連れと制約が多いなか、この地で自分を肯定するには仕事が必要だった。英語に不慣れな私は子供の宿題を隣で一緒にこなすだけでひいひい言っていたが、それでも稼いで自己肯定しなければダメになるとわかつていた。ここに来たことを後悔しないために。何が自分の武器か考えて考えて考えた末に見つけた答えは「書くこと」だった。

前職は東京のラジオ局で、そこでディレクターをしていたとき原稿をたくさん書いた。取材したことを原稿にした。ラジオは所帯が小さく資金も少ないため、小さな番組は放送作家も雇わずディレクターが書く。書いた原稿がパーソナリティを通して番組に立ち現れると高揚した。うまかったわけではない。特段褒められた記憶もない。でも書くことは好きだった。書くことを武器に、アメリカの日系メディアにレジュメを送って就活をして、結果的に2社の書く場所と出会ったのが転機となつて今に至る。そしてこの地で私に仕事というチャンスを与えてくれたのは全員女性である（小学館の担当編集者もまた女性）。

そこで拾ってもらわなかったら今の私はないだろう。私は彼女たちに見つけてもらい、首の皮一枚でつながってきた。

最終選考に残って以降、忙しい日々になるとは予想外だった。何度も何度も書き直したのだ。編集者の鋭い質問、一貫性の徹底、深掘り、事実の確認、時制の一致。量はどんどん膨れ上がり、応募当時の規定枚数をゆうに超えていたけれども、そんなことは問題ではないようだった。私の原稿をおもしろいと言ってくれた彼女との原稿手直しの日々。昼夜関係ない怒涛のやりとり。えぐってくる問いに、ひとつずつ打ち返していく作業。レングスを積み上げることが作品を作ることなのだった。応募したら、あとは結果を待てばよいだけと思っていた自分は無知だったな。何往復ものやり取りの末、ゲラが上がり、最後の手直しをし、プルーフ本が出来上がったときの感動は言葉に尽くせぬ。元々はただの紙束だった原稿が、本という立体物となった。作家という仕事の一端を体験できたのは幸運だった。これまで出してきた著にも棒にも引かからなかった数多の原稿を想った。孤島にいるような夜の時間を想った。文章を書くことは海に小石を投げる行為と似ていて、海に影響を与えないし、なんなら波紋も広がらない孤独の極みである。それが依頼された仕事ならいざ知らず、文学賞への応募という行為はそもそも誰にも頼まれていない。そして最終候補に残らなければ作品への反応は皆無のまま終わる。だから、書いたもののへの反応をもらいながら手直しする日々は非常に貴重だった。

結果は残念ながら受賞ならずで、私の怒涛の日々に終止符は

うたれた。しかし、あの時間は間違いなく財産で、私の血と骨になった。『ある人の渡米記録』という作品が書店に並ぶ機会は失われたが、作品を編んだ日々はこの体にすべて残っており、あの興奮は後にも先にも味わったことはなく、あれをもう一度経験したいがために私は再び挑戦している。

この地でライターとして、取材したり、リサーチしたりしながら原稿を書く日々を送っているが、仕事をするときに気をつけているのは正直であるということ、そのみはいついかなる時でも真ん中に置いている信念だ。2020年は新型コロナウイルスによる未曾有の事態で間違いなく教科書に載る年になってしまったが、私はその感染拡大がとまらないアメリカに暮らしている。仕事はもともと家でしていたのでさして状況に変化はないが、取材はすべてオンラインになった。車で取材現場に行っていた日々が懐かしい。けれどもオンライン取材が当たり前になったおかげで、距離の問題で受けられない仕事はなくなった。今や日本の取材も依頼を頂ければ引き受けている。ライターとしてはありがたい変化。一方で小学校に通っていた娘の教育は4月以降すべてオンラインになり、夫の仕事も家からになった。外部との交流が一気に絶たれたまま生活を営んでいる。

コロナ禍以降、私の住む街の治安は一気に悪化した。信じられない話だろうが銃は飛ぶように売れ、銃声を聞いたという報告、自宅から何マイル先のどこそこで人が銃で撃たれた、窃盗があった、事故があった、火事が起きた、そういうことを耳にしない日はない。平和とは案外脆い。日本で育った私にはその

すべてが今もまだSFのように映るのだが、これは現実であり、この原稿を書いている今、大統領選があと7日後に迫っているからアメリカ社会は揺れている只中にある（10月27日時点）。

治安の悪化は外出を控えさせる。食料品や日用品の買い出し、たまの散歩以外は外出しなくなり、子供も夫も私も常に何かのデバイスと向き合っている時間が格段に増えた。子供はオンライン授業が終わればiPadと向き合い、デバイスの向こう側の世界に心を持って行かれている。ここにいるのに、ここにはいない。YouTubeは次から次に新しい動画がアップロードされ、尽きることがない。インターネットがない時代であれば、実物の何かに（漫画であれ、おもちゃであれ）夢中になっていたのであろうが、彼女らの好物はすべてインターネットの中にある。夫もPCの向こう側の仕事と向き合っているか、それ以外の時間はSNSやゲームなどに興じている。私もまた人のことはいえず、SNSの波に飲まれ、PCやスマホの海にどっぷり浸かっている。私たち家族は、過去のどの時代よりも同じ空間にいるのに、心はそれぞれ違うところに浮遊しているのである。オンライン社会はそういうことを可能にしまったのだと観察している。

意識しなければ唯一の交流は食事の時間となるわけで、食事というのは家族に残された最後の砦だ。コロナ禍で旅行にも行かない（行けない）、外食もあまりしない（できない）、人との交流もない（しにくい）なかで、自らの手でなんとかできるもののひとつが食事で、だからだろう、我が家の食費はコロナ以

降ぐんと上がり、過去最高のエンゲル係数を叩き出している。朝も昼も晩も家族全員が食べる、それに加えて、各自好きな食材を思う存分買うことでストレス発散していることが原因だ。あなたのお宅はどうですか。

子供は朝8時20分から午後2時まで毎日ズームで授業を受けている。日本では学校が開校しているので信じられない話だろう。コロナによって授業が向こうからやってきて丸見えとなつた。これまでボランティアで授業の補助に入る時にしかわからなかった実態が目の前に現れたのだ。アメリカの公立小学校でどの科目の授業がどんな風に行われているか、こんなに詳しくなれるとは思ってもみなかった。もはやESLに通わなくても私の英語力は子供の授業と一緒に受けることで磨かれている不思議な現象が起きている。

驚くのはリーディングの時間で、大量の読みものを一週間でどんどん読んでいくことだ。そして読んだものに對して「今週初めて知ったこと」と「これについてあなたの意見は何？」という二つに関して、常に書かされる。正解は永遠に与えられない。やりっぱなし。やらせっぱなし。文法が間違っているが、起承転結がなかるうが、単語が間違っているようが、とにかくひたすらに書かせる。間違ってもいい、支離滅裂でもいい、でも「あなたの頭のなかにあることは何か」とひたすらに聞かれる。

娘たちは、土曜日に日本語補習校のオンライン授業を受けているので（補習校とは日本で使っている教科書を用いて日本の学校の教育を学ぶ全日制ではない学校のこと）、同時に比較で

きるのだが、ここは非常に日米の教育の対照的なところが出て
いると思う。アメリカのリーディングの時間と日本の国語の時
間を比較して思うのは、日本は常に正解があるということだ。
正解に向かって、効率的に考え、道に迷わず正解に辿り着くこ
とが正しいとされる。一方、アメリカのリーディングの時間を
見てみると、まず正答というものは与えられず、正解に辿り着
くことが重要ではないというスタンスなのだ。しかし常にアウ
トプットを求められる。アウトプットのなかで考える深さが次
第に深まっていくことを期待されているのだろう。娘の書いた
ものに対して先生が「それは間違っている」といったことは未
だかつてない。日本の教育を私はどの国よりも信頼しているが、
こと国語においては、正解することがよしとされる文化に、こ
れが国語でいいのだろうか疑問に思う。正解ではなかったか
もしれないが、自分で考えたことは尊いのだし、自由に意見を
持つことがあってもいいと教えてもらえたなら、子供はもつと
自由に思考の空を羽ばたけるのではないだろうか。

また先生の言っていることが理解できない場合、日本の子供
はわからない自分がダメだと思う。かつての私もそうだった。
わからない自分を消すように、わかる自分でありたいと願った。
そのギャップに悩んだりもした。けれどこの地で学ぶ子供たち
は「見られる自分」をさほど意識しない。先生を怒らせようと
も「わからない」と声に出す。両手を上にあげて「わからない」
とオーバーアクションをとる。先生によつては「なぜわかろ
うとしないのか」と怒りで対応する先生もいる。でもひるまな

い。全然ひるまない。わからないと主張し続ける。それは、君
が僕にわかるように教えてくれという叫びにも聞こえる。ズー
ムで一斉にすべての子供を見渡せるから、私はそういう子供に
すぐに気付く。子供が「NO」という姿を見るたび、私もそう
ありたかった。でもそうなれなかった。昔の自分と重ねて見る。
日本の教育はインプットに、正しくあることに、効率的であ
ることに寄りすぎている。人間は食べ物を摂取し排出すること
で健康を保つように、教育においてもインプットした分アウト
プットすることが本来必要なのではないだろうか。外に出すこ
とで、自分の考えが、理解の浅さが（または深さが）見えてく
るのではないだろうか。子供のアウトプットがどの方向に出て
行こうとも受け止める度量をもちたいと思いながら、これがな
かなか難しいのだけど。日本の教育を一口に語ることができな
いが、もしひとつ提案してもいいのなら、アウトプットの時間
をもつと作るべきではないかと思う。正解のないアウトプット
の時間を。人はとかく「聞いてほしい動物」だから。聞いても
らうと満足してまた歩くことができる。

書くことはアウトプットで、もしも私に書く場所が与えられ
なかったら異国生活を乗り越えてこられた自信はない。書く仕
事が私を救ってきたのだ。今後も仕事に邁進すると共に、去年
のように反応がもたれる場所にまた立ちたいと思って挑戦を続
けている。挑戦のいま感じていることは、挑戦する時間こそが
人生の充実であるということ。若くはないが老いてもいいない。
私の物語はまだ途中なので頑張ろうと思っている。

投稿

修猷館の二本木



荒金 満

(昭和29年卒 六八ろはち会)

近年、同年者の訃報が増えてきました。いずれ自分も、そろそろかなーと思い、身のまわりを整理せねばと、書棚などを整理していたところ、一枚の写真がでてきました。昭和十五年か、十六年ごろ撮影したものです。修猷館の二本木です。

左側の松葉箒を掲げているのが自分です。

この「二本木」には、私の幼い頃の思い出が込められています。当時、私の家は、修猷館の運動場の西側にあり、学校の壁は、今のように、立派な外壁ではなく、コンクリートの支柱に鉄条網をはっただけの外壁で、校庭は丸見えで、鉄条網をくぐって校庭への出入りは自由に出来、運動場と二本木は、子供達の格好の遊び場でした。

その二本木が修猷館の運動会のブロックの応援歌として歌われ(昭和二十六年「一年生」)大変懐かしく、また、びっくりし

ました。

あとで分かったことですが、この「二本木」の歌は、「修猷館ラグビー部の部歌」で、館歌などを収録した「修猷歌集」に掲載されています。

その後、二本木は枯れて、植え替えられたと聞き、過日、学校を訪れ、実物を見てまいりました。

二本木は、往時より、校庭の西南隅に植えられ、「二本木」に寄せる「先輩の思い」が、ミカゲ石の石碑に刻まれていました。

「石碑」

往時は是の地にくすどいげの双樹有り
二本木と呼ぶ幾多健児の修猷魂練磨の
支えとされり我ら

校門出でてより既に二十年
茲にその再現を計り古き伝統を享け
新しき時代を築くよすがにせむとす



昭和三十九年十月吉日

五十六回生



56回生(昭和19年卒)の石碑と
一本のくすどいげの木

令和二年七月豪雨による鉄道災害と

球磨川の治水対策



出田 貴康
(昭和50年卒)

経験したことのない豪雨

七月四日午前三時頃、会社からの電話で目を覚ました。

会社とは、私が三年前から仕事をしている肥薩おれんじ鉄道株式会社のことだ。起点の八代から三〇^キ南に下った佐敷駅(熊本県若北町)の雨量計が規制値を超えたので「運転見合わせ」を行っている、という報告だった。通常は旅客列車が走らない深夜の場合、単に規制値を超えたからと言って連絡はしてこない。聞けば時間雨量が六〇^ミを超える激しい雨なので被害が出る可能性もあるため連絡したという。

PCを立ち上げて行政の防災情報のページを開き雨雲レーダーの画面を見ると、熊本県南部全体を強い雨雲が覆い、さらに西方に帯のように伸びている。ここ数年話題になっていた「線状降水帯」だ。それにしても「線状」ではなく幅が広い。「帯状」だと思った。その画面に映る雲の下のはとんどの観測ポイントで時間雨量は三〇^ミを超え、人吉盆地あたりでは七〇^ミ数^ミにも

なっているとあるところもある。そして五時を回ったところ、再び会社から「き電が停電した」との連絡が入ったので、急ぎ会社(本社・八代市)に向かった。

「き電」とは電車が走るための動力電源のこと。線路面から五^ミほどの高さに張られた「架線」に電力を送る「き電線」(架線と並行して支柱に張られている電線)を流れる電力のことである。豪雨時、き電が停電する原因としては、倒木若しくは土砂崩れが電線を切断することが予想されるが、まさしくその通りの事態が発生していた。佐敷トンネル出口(下り列車の出口)付近の大規模な土砂流入で、数千立方^ミにも上る土砂が堆積し、トンネル坑口が全く見えない(写真①)。

この日の豪雨によって肥薩おれんじ鉄道が受けた被害は、このほかにも中小規模の土砂の流入、あるいは線路下の「路床」の流出、線路設備の浸水など、八代^ノ川内間全長一一七^キの路線のほとんどの区間で発生し、全部で九二か所に及んだ。これは、二〇〇四年三月に九州新幹線新八代^ノ鹿兒島中央間の開業



写真① 佐敷トンネル坑口:点線部の坑口と構造物が埋没している

にもなつて、並行する旧鹿兒島本線の一部をJR九州から引き継いだ第三セクターの肥薩おれんじ鉄道営業開始以来の大きな災害となった。

広範囲に広がった鉄道被害

令和二年七月豪雨では熊本県内だけで死者行方不明は六七名、家屋の全半壊は一一、四七四戸に上る。今回の災害では、特に球磨川中流域から下流域にかけて大きな被害を受けたのは報道でご存じだと思うが、一方でJR肥薩線やくま川鉄道の鉄道橋が流失した無残な姿をテレビや新聞でご覧になった方も多いだろう。

球磨川には、上流からくま川鉄道の球磨川第四橋りよう、JR肥薩線の同第三から第一橋りようまでの三橋、そして肥薩おれんじ鉄道の球磨川橋りようの計五橋の鉄橋が架けられている。流された三橋は、JR肥薩線の二橋が明治四一（一九〇八）年、第四橋りようが大正一二（一九二三）年にかげられた「百年選手」である。

実は、第四橋りようと同じ時期に架けられた肥薩おれんじ鉄道の球磨川橋りようも、一部の橋脚に激しい（地中に埋まった橋脚の周りの土砂が洗い流される）洗掘が見られた。橋桁と濁流の間に余裕があったこともあり、橋桁やその上の線路にダメージは見られず、大事には至らなかったものの、「この洗掘がさらに進めば、橋脚の転倒も…」と、球磨川の水が引いた後の現場を見たときは冷や汗が流れた。（写真②）

初めて佐敷トンネル付近の被災状況を見た時は年内の復旧は

無理かと覚悟をきめたが、いくつかの幸運もあつて発災から約四ヶ月後の十一月一日には全線で列車の運転を再開することができた。全線開通のセレモニーは、沿線では一番大きな被害が出た芦北町の中心部にある佐敷駅で行ったが、全国から集まつてきた鉄道ファンの皆さんとともに多くの地域住民が集まり、盛大なお祝いとなった。これも、会社が始まつた時以来の人数ではなかつたろうかと思っている。

昨年三月、岩手県の三陸鉄道がリアス線としての全線開通を祝う式典に招かれたおり、大漁旗を振り記念列車を出迎える人々の喜ぶ様子を見て、「おらが町を鉄道が走るありがたさ」を感じたのだが、今回の被災の経験でその思いを再びかみしめることになった。

紆余曲折の治水対策

ところで、私は二〇〇七年四月から二〇一〇年三月までの三年間を人吉市で過ごした。県職員だった私は、人吉市と球磨郡



写真② 球磨川橋りよう橋脚：最下部まで洗掘が進んでいた

を管轄する熊本県の出先機関に勤務していたのだが、ちょうどこのころ、今回の豪雨災害を契機として話題となっている球磨川の支流で計画された川辺川ダム事業に大きな動きがあった。一九六六年から多目的ダムとして始まった川辺川ダム事業は、五木村の水没予定地に住んでいた住民の代替地への移転が完了する一方で、九〇年代に入りダム建設反対運動が高まる中、利水事業や発電事業が行き詰まり、私が赴任した年に相次いで両事業者（農水省と電源開発）が撤退を決めた。

そして人吉勤務の二年目を迎えるころ、現知事の蒲島郁夫氏が知事に就任すると、ダム建設について半年以内に方向性を明らかにするとして、有識者や自治体からの意見聴取を始めた。そんな中初めて人吉の職場を訪れた知事は、開口一番「民意はどう？」と上司と私に尋ねた。

春は河鹿ガエルの心地よい鳴き声が聞こえ、色鮮やかなカワセミをはじめ川鵜などの水鳥が獲物を狙いながら水面を行きかう。六月になれば、全国から尺鮎を求め釣り人が集まり、胸まで水の中に入って友釣り用の長尺の竿を出している。穏やかな球磨川はこんな景色を人吉の街の中心部で見せてくれる。そんな「清流球磨川」を守りたいと思うのは、皆の共通の願いであるが、その思いがダムへの拒絶反応に繋がっている人が多いのは確かだった。知事から「民意」を問われた私の上司「ダムが必要と考えていたが、は、即座に「ダム反対です。」と答えた。二〇〇八年の九月一日、就任後半年で「ダムによらない治水を極限まで追求する」として計画の白紙撤回を国に求めるこ

とを表明した。この時点で、当時の人吉市長、ダム本体建設予定地がある相良村長がダム建設反対を表明しており、当時の知事の判断にも大きく影響したものと思うが、蒲島知事が第一に考えていたのは民意だったと思う。

こうして、「ダムによらない治水」の検討が始まったが、遊水池、引き堤、堤防や宅地のかさ上げ、河床掘削、放水路など様々な方策を組み合わせても、数千億円に上る膨大な予算と数十年以上という長期間を要することもあり、この一二年の間に結論を得ることができずにいた。そんな中で、起こった災害だった。

被災地の復興のために

被災後の人吉市内、特に球磨川近くの場所では、屋根まで浸水した数多くの家屋が五ヶ月経った今も解体が進まず立ち並んでおり、市中心部の商店や旅館ホテルも営業を再開しているのはごくわずかだ。まして、道路の被害も大きく一般の通行が制限されている球磨村などの球磨川下流の状況は、さらに厳しい状況である。

現在、熊本方面から人吉球磨地域に至る主要なアクセスルートは、球磨川下流沿いを走る国道二一九号線とＪＲ肥薩線に大きな被害があったため、高速道路九州道のみとなっている。特に、ＪＲ肥薩線は人吉盆地と域外を繋ぐとともに、人吉から下流の球磨川沿岸地域の重要な交通機関となっているだけでなく、九州南部の観光を支える重要な鉄道ネットワークの一部を担っていることから、その早期復旧は被災地の復興の大きな足掛かりとなる。

しかし、先述の鉄道の被害は、当社のそれとは比較にならないほど大きく、特に橋りょうの架け替えはただでさえ年単位の長期間になるが、必要とされる橋桁の高さ等を左右する球磨川の治水対策が決まらないことには先が見えない。そして、それはインフラの復旧だけでなく、被災者の住まいの復旧、再建にも大きく影響する。

人吉の出先期間に勤務した三年目に、肥薩線は開通百年を迎えた。一九〇九（明治四二）年に東京から鹿児島まで鉄道がつながったころは、「鹿児島本線」とされており、その後の人吉は鉄道のまちとして大いに栄えたという歴史がある。

その人吉駅や国宝青井阿蘇神社と球磨川を挟んだ人吉城址を中心にコンパクトにまとまった落ち着いた街の佇まい、そして周辺の豊かな山里は、温泉や球磨焼酎と相まって、住む人や訪れた旅人を惹きつけ、人吉球磨のファンになる人は結構多いのである。

去る十一月一日、蒲島知事は、「現在の民意」をもとに一二年前に自ら下した判断を覆し、（流水型）ダムを含めた治水対策を国に求めることを表明した。

今度こそ、五〇年以上にわたって議論が続いてきた球磨川の治水対策が決着を見て、住んでよし、訪れてよしの人吉球磨地域の復興を図るための鉄道をはじめとしたインフラの復旧が進むとともに、人々の日常が一刻も早く戻ることを祈るばかりである。

部活OB会

修猷館野球部創部125年にあたって



前野球部OB会

「修猷野球倶楽部」代表世話人

眞鍋治彦

(昭和46年卒)

2020年、修猷館野球部は創部以来125年を迎えました。われわれ野球部OBは、祝賀事業として、記念式典、招待試合、現役部員への記念品贈呈、記念誌作成などを企画しました。残念ながらコロナ禍のため、2020年6月開催予定であった記念式典は延期となりましたが、他の事業は、OB、関係者の賛同を得て、無事達成することが出来ました。

招待試合として、熊本県立済々黌高校戦を開催しました。済々黌とは平成2年から毎年（両校のグラウンドを交互に訪問）対抗戦を行っておりちょうど30年の節目の年でした。コロナ禍のため6月6日の予定は一旦中止となりましたが、高島修猷館長、那須済々黌長のご理解、両校監督のご尽力で、7月12日にラグビーコートを除いて完成した修猷館人工芝グラウンドでの開催となりました。当日は朝から雨模様で午前中はグラウンドを使

えませんでした。恒例の食事会（今回は physical distance を取って）の後から雨は上がり、13時から応援団によるエール交換、高嶋館長の始球式に続いて熱戦を繰り上げることができました。公式の部活動が休止されていた状況にあつて、対抗戦を開催できたことは両校の3年生にとって思い出深いものになったと確信しています。立派なグラウンドを作ってくださった修猷協会ならびに修猷館同窓会の方々には感謝申し上げます次第です。

グラウンドの開場に合わせ、記念品として高速球に対応できる最新式ピッチングマシンを現役諸君に贈りました。早速練習に用い評判の剛速球投手を打ち崩すなど効果は現れているように思っています。

記念事業の中で、『125年記念誌』作成は、記念事業のエピソードとなりました。第一に、できるだけ詳細な部史となるよう、残されてきた資料に加えて、記念誌編集委員が福岡県高校野球連盟に赴いて戦前から戦後の高校野球資料を借り受けて修猷館に関する記事を抽出し、部史を再編纂しました。第二に、これまでのOB会名簿、修猷館同窓会名簿、各年代の主将、副主将への問い合わせなどで、より完全な野球部在籍者名簿を作成しました。第三に、それぞれの時代に即してあるいは時代を超えて修猷館野球部を語る座談会を、年代ごとあるいは地区ごとのOBに集まっていただき開催し、これを編集し掲載しました。これらと同時に、OB、関係者に広く寄稿を呼びかけました。以上の結果、予想を遙かに超える原稿の集積と多くのOBの消息判明により、充実した記念誌となりました。ここに、125

周年記念誌の一部を掲載させていただき野球部の歴史を紹介いたします。

修猷館野球部史（抄）

「修猷館二百年史」に掲載された野球部史がある。波多野聖雄（S26年卒）、故・樋口清房（S33年卒）、野口基雄（S41年卒）の諸先輩が纏められたものである。今回の125周年記念誌の編纂に当たっては、新たな資料を得てこれに加筆するともに記録の一部を修正・補完した。

1. 創設時代

修猷館史に「明治28年（1895年）生徒数680名。この年、校内に同窓会が生まれ、剣道・柔道・陸上・野球の4部を設け、教職員・在校生の体育向上をはかる」との記載があり、野球部創設はこの時とされる。明治35年学友会雑誌を見ると、紅白試合が盛んに行われた模様が記されている。40年には初の対外試合として福岡商業を、41年には福岡師範学校（現教育大）を招待している。43年には初の福岡市野球大会に出場し準優勝となっている。

2. 大正時代

大正元年の抜天三井連合主催野球大会、2年の五高主催野球大会、3年の明治専門学校（現九州工業大学）主催大会で、都島義恵（T4年卒）の快投もあって優勝し第一期の黄金時代となった。4年の第1回全国中等学校優勝野球大会北部九州予選はベスト4で涙をのんでいる。この頃は野球部と言わず野球科と称していた。その後、一時低迷したが、13年秋には後に二科

展会員となる伊藤研之（T14卒）投手の活躍もあり、市内リーグで全勝優勝するまでに復活した。この頃、発起者、九大池田免一、（旧制）福高山口四郎、浅香勝茂、松村半太郎により、卒業生と現役との親密な連絡を保つため「修友倶楽部」が創立された。会長には白坂栄彦館長、副会長には白井、田村両教諭が選出され、昭和30年代まで白井会長となって存続している。

3. 全盛時代

昭和2年、3年、4年と連続して市内中学リーグで優勝（写真1）。しかし、全国大会北部九州予選は佐賀中に5-6、長崎海星中に6-7でいずれの年も敗退した。この間の主将池田伍六はその後、五高、東大で主将を務める。5年、中国新聞社主催内務大臣旗争奪全国中等学校選抜大会に招待され、広島商を5-0、大正中（呉港中）を6-1、優勝戦では和歌山海草中を5-1で破り優勝した。全国大会北部九州予選準決勝では10-1で佐賀商を破ったが、決勝で小倉工



写真1：大正期（1923年）の野球部

に0-2で敗れた。またこの年から監督となった行徳正祐（S3年卒）は、以後50年間にわたり修猷館野球部監督として甲子園への執念を燃やすことになる。

4. 昭和20年代

昭和20年夏に終戦を迎えると、白土督成（S22年卒）、渡辺英典（S22年卒）、吉田正雄（S22年卒、パリーグ審判）、大野正隆（S22年卒、パリーグ審判）らが、まず芋畑になっていた運動場の整備から始めた。道具類は自前とともに、進駐軍から譲り受けたボールやバットを使って練習した。21年夏、戦後初の甲子園大会予選1回戦では、渡辺英典、菅野久雄（S27卒、中日）を中心に波多野聖雄（S26年卒）、広岡大費（S27年卒）の4投手をつぎこんだが筑紫中（筑紫丘）に敗れた。同年秋には河野昭修（S24年卒、西鉄ライオンズ）を中心とした新チームが戦後初の市長杯大会で準優勝している。

昭和21年秋、行徳正祐氏が監督として再登場した。22年、河野、木村の強力バッテリーで市内大会に優勝し、夏の大会は県南予選も勝ち抜いて名投手福島を擁する小倉中と準決勝で対戦したが惜しくも敗れた。小倉中は甲子園の優勝旗を初めて九州の地に翻した。

昭和23年は新制高校となった年で、この年から福岡県の代表チームが出場した夏の大会では、予選準決勝で再び小倉高と戦い敗れた。

5. 昭和30年代

昭和30年、夏の大会直前に再々度行徳監督を迎えたが2回戦

で西南学院に敗れた（S31年卒稲川誠投手は立教大、富士鉄室蘭を経てプロ野球大洋で活躍）。秋の新チームは市長杯優勝戦に進出した。31年、春の市長杯決勝戦および九州大会県南予選決勝戦に進出したが福岡工に1点差で敗れている。夏の全国大会予選では県南代表決定戦（4回戦）で大牟田南に敗れた。秋の新チームは市長杯で大豪を7-0で下し優勝し、九州大会予選では順調に勝ち進んだが、準々決勝で柳川商に3-4で敗れ春の甲子園選抜大会出場の実夢が消えた。32年は春の九州大会県南予選で柳川商を破り優勝（9年ぶり九州大会出場）、市長杯も優勝した（写真2）。

夏の全国大会予選では故障者続出ながら少ない部員で勝ち抜き、決勝戦は戸畑と対戦した。一回、二回と連続得点し甲子園初出場なるかと思われたが4-10で涙のんだ。練習で何日もバッティング投手を務めてくれた山城照清（S28年卒、西南大、日本新薬）、稲川誠両氏の献身が大きかった。



写真2：昭和32年県南部大会優勝

6. 昭和38年以降

昭和38年以降の成績を見ると、夏の全国大会予選は38年、56年に3回戦まで進出、九州大会県南部予選では38年春、45年秋、47年秋、54年秋と4度にわたり準々決勝まで駒を進めている。有力校を脅かすダークホース的存在の年が多く、全くの成績不振ということでもなかった。このなかで、長年にわたり監督として野球部の面倒を見てきた行徳氏がユニホームを脱いだのは昭和56年夏であった。

昭和52年、前述の「修友倶楽部」が昭和30年頃途絶えた後、OBの集まる組織が皆無であったことから、当時大学生であったOB数名と行徳氏が「修猷金星クラブ」を新たに発足させ、OB懇親の場を設けた。現在は修猷館野球部OB会「修猷野球倶楽部」としてOBの懇親、OB野球大会参加、現役への援助を行っている。

7. 新しい監督

行徳正祐氏が退いた後、教員であった水田勝也氏、柴田幸輔氏（S32年卒）と監督は引き継がれたが、昭和62年からは衛藤震治氏（S41年卒）となった。修猷館の伝統を引き継ぎながら他のスポーツの練習方法を取り入れ、斬新な視点で野球部強化に取り組んだ。昭和63年夏は、福島泰主将の下、31年ぶりの県大会進出を果たしたが、準優勝の八幡大付に0-3で敗れた。平成元年夏は立野次郎主将の下、エース波多江の好投と1年生4番牛島邦晴を中心とする打線、堅い守備がかみ合い2年連続で県大会に進み、32年ぶりにベスト4入りした。準決勝では、

西日本短大付属に1-9で敗れた。

平成19年秋は駒田開が主将となり、私学強豪校を次々に破って福岡市長杯に優勝した。九州大会福岡県南部予選では、勝ち進んだが、準決勝で優勝した沖学園に3-4で敗れた。しかし、好成績が認められ、初めて選抜高校野球大会21世紀枠推薦校となった。20年夏は、福岡第一に接戦の末逆転勝ちし19年ぶりの県大会出場を決めたが、東福岡に1-5で敗れた。同年秋は篠田悠を新主将として活動を開始したが公式戦で一度も勝てなかった。しかし、夏の大会では、4-3香住丘、2-1福岡、4-3九座大九産といずれも逆転サヨナラ勝ちし「ミラクル修猷」と相手に嫌がられた。県大会では福岡大大濠4-2、準々決勝の糸島戦6-5でサヨナラ勝ちした。準決勝は筑陽学園と対戦し、延長十回にサヨナラで敗れた（2-3）。

8. おわりに

明治33年から今日まで約90年間と長い野球部の歴史の中で、行徳正祐氏の業績は特筆に値する。50年という長きにわたり、無報酬で監督を務めて優秀な選手を育てた。選手を一定の型にはめることなく、各人の長所を最大限に引き出した。昭和60年以降の野球部では、30年近く衛藤震治氏が監督を務め、平成元年、20年と県大会準決勝まで駒を進めた。行徳氏同様に無報酬であった。現在は、その教えを受けた波多江憲治氏（H2年卒、数学科教員）が監督として後を引き継ぎ、虎視眈々と甲子園を狙っている。

修猷館野球部創部125周年

記念誌題字を揮毫して

平 田 道 彦

(昭和51年卒)

野球部OB会会長の眞鍋治彦さんからお話があり、修猷館野球部創部125周年記念誌の題字を揮毫させていただいた。高校時代に書道部に所属していたとは言え、その後は趣味で書を書いていただけの私にとって今回のご依頼は大変栄誉なことであつた。

お話を聞いてすぐ、野球部やラグビー部が練習していた修猷館の運動場が目につかぶようで、ぜひとも書きたい気持ちになった。しかし、書作はいつもそうであるが、書き始めると途端にその容易ではないことが分かり、書くほどにそれが身に染みてくる。

野球部創部125周年記念誌の題字である。上手にまとめればいいという訳ではない。「野球」を表現する。あるいは「野球部」を表現する。そういう抽象的なことでもだめな気がした。依頼されたのは「修猷館野球部」である。

「修猷館野球部」と聞くと、私は一人の友人を思い出す。その友人とは若くして世を去った斉藤郁哉君（S51卒、H18没）である。

彼は野球部の主将で、身体能力が抜群で（白木先生の体育の授業の3周（1500m）のタイムが4分台、「いかつい」という言葉は彼のためにあるような風貌と体躯の持ち主であつた。卒後30年ほど経ったある日、当時私が住んでいた山間部の町に彼は出張でやってきた。仕事を終えたその夜、一杯やりながら彼は野球の話をしてくれたのである。

「野球でくさ、人間の動きが全部入つとつとぜ。ボールを投げるやろ、バットを振って打つやろ、走る、飛ぶ、スライディングする、フライを捕る。ゴロを拾う。送球する。それから、いろいろ考えるやろ。そういう意味では野球みたいなスポーツは他にないと思うつたい。」

彼がそう言うのを聞いた時、野球はまるで門外漢の私だが、野球というものの何かが少し分かる気がした。そして同時に、斉藤君と野球や野球部との関係が分かるような気がした。それから再び会うことはなく、一年も経たずに彼は帰らぬ人となつてしまった。

私が書くとするれば、あの時私に見えた「修猷館野球部」しかないと思つた。斉藤君が嬉しそうに語つた野球の魅力、それを伝えて続けた「修猷館野球部」、それを書きたいと思つた。

しかし、それは一介のアマチュア書家の手に余る仕事であつた。けれども、なんとか書いた。斉藤君のいかつい容姿とその奥にある繊細な情熱のようなものを思い出しながら、書いた。躍動する精神と肉体、そしてその中にある理性と節度、そのようなものが表現できればと思つて書いた。出来栄えはどうだろ



う。作者を離れて記念誌の表紙に独立した白抜きの書は、いつものように未熟と不達を突きつけてくる。斉藤はこれを見て何か言うだろうか。いつか彼岸で訊いてみよう。

最後にこのような得難い機会を与えて下さった真鍋先輩をはじめとする記念誌編集諸氏にお礼を申し上げる。また、こういう縁を繋いでくれる母校修猷館に改めて感謝する次第である。



キャリアアセミナー

『幻』のキャリアアセミナー、

『幻』の創立記念講演、『幻』のあれこれ。

～同窓会総会準備・中止から再確認したこと



讃猷会 副実行委員長

奥田 竜子

(平成3年卒)

1 はじめに

2020年5月。最後の金曜日。修猷館同窓会総会が開催されるまさにその日、現役修猷生へ我々讃猷会メンバーによるキャリアアセミナーが予定されていました。

讃猷会のキャリアアセミナー班は1年ほど前から活動を始めました。同級生の情報を集め、あらゆる職業や生き方を探り、発掘していくという作業は、同時に班のメンバーそれぞれが新しい世界や生き方に触れる刺激的な時間でもありました。

中には講演に不慣れな人もいましたが、最終的には、皆「少しでも現役生のためになるのであれば」と快く引き受けてくれ

ました。

2 『幻』のキャリアアセミナーの多彩なラインナップ

今、私の手元には、今年度のいわば『幻』のキャリアアセミナー講師一覧である「令和2年度卒業生キャリアアセミナー講座一覧」があります。そこに書かれた40名の講師の肩書、短い自己紹介文には多様な生き方や現役生への思いがあふれていてジーンとしてしまいます。せっかくの機会ですので、ほんの少し紹介させていただきます。

◇九州大学医学部医学研究院小児科准教授の古賀友紀さん

「小児がんの子どもたちから教わった

～『生きること、生かされることの意味』お伝えします」
一人でも多くの子どもをこの手で救いたい、そんな思いで小児がん専門医の道を選びました。研修医時代に出会った子たちは、成人し元気に定期検診に来てくれます。感慨深いです。そして、医師として、たくさんの子をお空に見送りました。病気を正面から受け入れ、闘う子どもたち。その目は力強く、心は驚くほど澄んでいます。学びに貪欲です。子どもたちから自らの生きること、生かされることの意味を学ばせていただいています。大事な修猷の後輩たちにお伝えいたします。

◇九州中央病院救急部長の医師である前原伸一郎くん

「人の命に触れる～生き方と逝き方を見守る」

救急医療ってドラマや映画などでは結構カッコよく描かれていますよね。でも、実際は？医者になって20年、外科医として肝臓の手術に携わっていましたが、いつの間にか今は救急医。救急車の対応、集中治療室の管理、院内急変の対応など、毎日バタバタしています。その他、災害への準備、緊急に備えてのスタッフ教育、救急隊との連携など多くの業務に関わります。そんな日々は学びと悩みの連続です。外科医そして救急医として日ごろ思うことをみなさんにお話しできればと思います。

◇マークイズ福岡ももち館長の安部郁夫くん

「商業施設ってこういうもの、

『マークイズ』ってこういうこと」

日々多くの人が行き交う商業施設。その商業施設を運営するとはどういうことでしょうか？例えば「営業」という切り口では日々のテナントとのコミュニケーションや出店交渉など。その他イベントや宣伝といった「販売促進」や、建物を維持管理する「施設管理」、近隣や行政といった施設外の関係者との協力も必要です。けれど一番の基本はお客様にいかに「来て、見て、楽しんで」もらせるか！こういった商業施設の運営管理について、限られた時間ですがお話ししたいと思います。

◇婦人公論編集長の三浦愛佳さん

「AIには代われない『編集者』という仕事」

みなさんも日々の生活の中で自然としている「編集」という

作業が、発信する現場＝メディアではどのようになされているのか。また、編集者が作家や読者にどのように作用するのか。人の心を動かす作品を世に送り出すために必要なものとは。それは修猷館で学んだことに由来しています。

◇福岡銀行から社内ベンチャー企業

i Bankマーケティング(株)を立ち上げた永吉健一くん

「金融・銀行の新しいサービスのカタチ

～福岡発×地銀初 フィンテックベンチャーの挑戦」

デジタルテクノロジーの進展や、GAF Aといったグローバル企業、LINEやメルカリなどの日本の新興企業による金融業界への参入で脅威にさらされる銀行の将来は？お金が果たす役割とユーザー視点から誕生した新しい金融のカタチFinTech(フィンテック)をテーマに、既存の銀行員がたちあげた社内ベンチャー企業の挑戦を紹介します。

◇大阪教育大学教育学部准教授の後藤健介くん

「興味と経験と応用力を糧に教育・研究の道を歩む」

農学・工学・地理学・医学・教育学と渡り歩いてきましたが苦しい時期もありました。けれど、これらすべての経験を糧に大学教員として教育と研究、すなわち人材育成と社会貢献を行っています。今までアフリカやアジアで行ってきた調査研究話などを交えながらお話しします。

◇コンテンポラリィダンサーの中島晶子さん

「好きなことを仕事に（コンテンポラリィダンスの世界）」

コンテンポラリィダンスというものを一度は見たことがある方も多いのではないだろうか。私は小学生時代からバレエを学び、修猷の運動会でダンスに出会って以来「私のやりたいことはこれだ!」と感じて踊りの世界に飛び込んでいきました。型にとらわれずどんな動きもダンスになるのがコンテンポラリィ。実際に体を動かして一緒に踊ってみましょう。

◇キュレーターかつ

佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授の花田伸一くん
「アートプロジェクトの現場から」

キュレーターは美術展やアートプロジェクトを企画運営する専門家です。美術の面白さや大事さ、美術展の舞台裏などにについて話します。表現・芸術・文化活動に興味ある人、学芸員やキュレーターの仕事に興味ある人が対象です。

◇（株）トライアルカンパニー代表取締役社長の石橋亮太くん

「第四次産業革命がもたらす流通小売の変化」

AI、IoTをはじめとする第四次産業革命がもたらす流通・小売業の変化についてお話しします。普段何気なく買い物している店舗の裏側では何が起きているのか？テクノロジーはどう活かされているのか？高校時代は音楽ばかりであり真面目に勉強していませんでしたので、30年経ってこういう場所

で話すことになるうとは全く思っていませんでした。皆様の将来を考える上で少しでもお役に立てればと思います。

◇会社員かつ「バス路線探検家」の沖浜貴彦くん

「パラレルキャリアという選択肢

バス路線探検家ができるまで」

生きていく糧を得るための会社員活動「ライスワーク」と、趣味活動の延長線上にありながら社会貢献を含む「ライフワーク」である「バス路線探検家」を両立させる「パラレルキャリア」という志向について。これまでの活動実績と、今後の展望。

最後に、弁護士である私は、日常の弁護士業務に加え、福岡県教育委員会に関わった経験やオリンピック競技種目である中央競技団体の理事を務めている関係から、教育やスポーツなどの分野で弁護士として貢献できることなどをお話しする予定でした。

3 『幻』の創立記念講演

キャリアセミナー当日の午前中には、現役生を対象に讃献会の誇る「山の旅人」栗秋正寿くん（冬季アラスカ単独行で第15回植村直己冒険賞受賞）の講演が予定されていました。彼の飄々とした風貌や語り口からは想像もできないような、過酷で、でもどこか軽やかな登山道中のエピソードの数々。予測できない困難にあふれ少しばかり不安な今を生きる現役生へ、大事にす

べき心と身体の持ちようのヒントを届けることができたはずなのにと残念です。偶然にも彼は昨年秋に「山の旅人 冬季アラスカ単独行」（閑人堂書店）という本を上梓しましたので、お手にとってみられてはいかがでしょうか。

4 その他の『幻』

我々讃猡会のいわばユニフォームともいべき学年幹事Tシャツ。紺地に総会テーマの「2020」★ロゴがデザインされたもので評判も上々でした。総会チケットにも取り入れられた讃猡会自慢のデザインで、当日のお土産にもこのデザインを取り入れ洒落をきかせたものをご用意していたのですが『幻』に。総会当日のために準備された企画班の出し物も、総会翌々日に予定されていた恒例のゴルフ大会もすべて『幻』に。

『幻』続きの中、ただひとつ現実的だったのは総会中止に伴い発生した「チケット代金の払戻し」という切なくかつ地道な作業。チケット班・会計班が迅速かつ緻密に対応してくれました。

5 おわりに

全てが順風満帆だったはずなのに、コロナ禍という想定外の世界的事象の前に総会もセミナーもその他もろもろの準備もすべて『幻』となってしまいました。

けれど、振り返って思うに、幹事学年の活動を通じ卒業30年を経て改めて培われた友情はコロナ禍という想定外の出来事にも分断されることなく、より一層強固になったように思いま

す。緊張の糸が張り巡らされた中止判断までの最後の数ヶ月。中止決定に伴う諸々の処理。讃猡会メンバーそれぞれが、それぞれの持ち場で臨機応変、一丸となって対応してくれました。手元のキャリアアセミナー担当講師一覧を改めて眺めるに、40名の職業とそれぞれの歩んできた道が全く違うことに驚かされます。担当講師に限らず、400名を超える讃猡会メンバー全員が違う人生を歩んできました。一人一人の得意なこと、歩んできた道が違うからこそ、尊敬し、補い合って、これらを乗り越えられたのだと思います。

皆、高校時代に思い描いていた人生とは180度違う今を過ごしているのかもしれませんが。けれど、運命（笑）に操られながらも、その時々で、目の前に現れたたくさんの選択肢の中から、それぞれが選び取った結果の積み重ねで今があります。

はるか昔、私も将来に不安を持つひとりの高校生でした。もしキャリアアセミナーが実施されていたら、弁護士という仕事の紹介もさることながら、あの頃の自分に伝えたいこと、あの頃の自分が知りたかったことを話したのではないかと思います。

いろいろ思い通りにいかず将来に不安を覚えているかもしれないけれど、大丈夫。修猡館で学んだように、ただ、自分の意思で決断し、その決断にしたがい真摯に行動しさえすればいい。柔軟に、そして楽しく。それに、いざとなったらひとりじゃない。先輩後輩同級生との関係は、遠くに近くに交わり、広がりながら、これからもずっと続いていくのです。

資料館案内

資料館運営委員会

【資料館】

平成11年から始まった修猷館高校の新校舎改築は平成20年の新正門の完成により終了し、明治通りに面していた旧正門は南門という名前になりました。南門からは正面の蘇鉄の向こうにタワーを中心とした近代的な校舎が改築前の姿をとどめるように建っています。南門を入ると蘇鉄の左側には周囲とは対照的に木立のある小さな森のような空間が広がり、その中に深みのある赤茶色の煉瓦壁が印象的な修猷資料館が美術館のような雰囲気で行んでいます。ここには修猷館の歴史を物語る数多くの資料や記念品が展示されています。

資料館の建物は昭和51年（1976年）、当時第三代同窓会長であった江浦重成氏（大正2年卒）により寄贈されたもので、建物の基礎や前庭には昭和の頃に市内を走っていた西鉄路面電車の敷石を配し、深い落ち着きを感じさせるものでした。内部には展示室・事務室・収蔵庫がありました。その後40年の時を経て老朽化が進んだことなどから、修猷館創立230周年事業の一環として財団法人修猷協会の支援により増改築がなされ、平成28年3月12日にリニューアル記念式典が行われて開館しました。新しい資料館は、以前の資料館の趣のある赤煉瓦の外観

をそのまま保存して増築しています。展示スペースが2倍ほど広くなり、空調設備を整備して収蔵品を保管する環境も大きく改善されました。このため、

資料館が所蔵する資料を従前より数多く展示したり解説できる充実した空間が生まれたことから、学校外の方々も展示品を見学できる機会を設けることとなり、月に1回程度の一般公開の日が設定されました。今年度はコロナ感

染拡大を受けて現時点では閉館していますが、一般公開の日程は修猷館高校のホームページに掲載されています（※脚注参照）。

資料館内部には展示室が2つあり、第1展示室には美術館のように絵画や書の掛け軸などが飾られています。すべて修猷館の卒業生の作品であり、29点展示していますがこれは多数収蔵されている中の一部です。展示されているものの中には、修猷館再興の「恩人」とも言える金子堅太郎（藩校修猷館）、第32代内閣総理大臣である廣田弘毅（明治31年卒）、最高裁判所長官を務めた田中耕太郎（明治41年卒）などの書、吉田博（明治



外観 修猷館高校ホームページから

26年卒)、児島善三郎(明治45年卒)、中村研一(大正3年卒)、足立襄(昭和3年卒)などの絵画、書状等が展示されています。第1展示室と回廊でつながっている第2展示室は、藩校時代から現在までの修猷館の歴史を辿ることができる場です。正面には天明4年(1784年)の東学問稽古所修猷館開館の儀式で飾られた孔子像の大きな絵画があり、その左側には明治時代の県立中学修猷館から戦後の県立修猷館高等学校までの学帽が並んでいます。藩校時代、明治4年の廃藩置県で藩校が廃止されていた時期、明治18年に英語専修修猷館として再興される前後の諸史料、投石事件の記録、夏目漱石の中学修猷館英語授業視察報告、明治・大正期の生徒手帳など学校生活を偲ばせる品々、昭和39年(1964年)第18回オリンピック東京大会で国立競技場に翻った五輪旗など修猷館の歩みを語る多様な物品が数多く展示されています。卒業生の皆さんには懐かしい校舎の写真是明治期から現在まで、また館歌の作詞・作曲者の写真もあります。



展示室一左手前に「孔子像」が展示されている 修猷館ホームページから

第2展示室には121点の展示品があり、この紙面ですべてを紹介することはできませんがその一部を紹介します。一つひとつの資料にそれぞれの時代背景があり、その中で修猷館に集い学んだ館友の姿が浮かび上がってきます。現在では、修猷館に入学した新入生は、毎年4月に「修猷を知る」ために全員資料館に入って説明を受け、見学をします。修猷資料館は230年の歴史と伝統を展示するだけではなく、世のため人のために尽くした先輩の生き方をもこれからの社会を担う在校生に伝承する場ともなっています。

※ 資料館の開館日は修猷館高校ホームページの中で「学校紹介↓資料館↓R2年度修猷資料館一般公開のお知らせ」に進んでいただと年間の開館予定日が掲載されています。

【五輪旗】

昭和39年(1964年)10月、第18回オリンピック東京大会が開催されました。アジアで初めてのオリンピックであり、メインスタジアムとなった国立競技場を飾ったのがこの五輪旗です。オリンピック組織委員会会長を務めたのは当時第二代修猷館同窓会長であった安川第五郎(明治39年卒)でした。安川は実施が困難とされていたオリンピックの組織委員会会長を受諾し、すぐれた指導力と人望により組織内外の信頼と協力を集めて大成功を収めました。また、オリンピック開催に合わせて建設された東海道新幹線・首都高速道路・東京モノレールなどはその後の日本経済の発展と国民生活の向上に大きく寄与しま

した。五輪旗は国際オリンピック委員会から組織委員会に贈られ、さらに組織委員会から記念品として会長であった安川に贈られました。安川は五輪旗が「若い人たちの奮起のために役立つなら」と母校に寄贈することとし、昭和40年（1965年）1月に修猷館高校講堂で全校生徒1800名、保護者・同窓生多数出席のもとで開催されたオリンピック記念講演会に先立って贈呈式が行われました。

毎年9月に実施される修猷館高校の運動会では入場行進の先頭に立つ運営委員が五輪旗を掲げて進み、その由来が会場にアナウンスされてきました。現在、五輪旗は安川の肖像画（和田三造（明治33年中退）による）とともに資料館で展示されており、運動会ではレプリカが使用されています。



五輪旗と安川第五郎氏

明治37年2月9日、日露戦争開戦時、仁川港外で、日本海軍の瓜生艦隊に攻撃されて大破し、港内で自ら爆沈したロシア巡洋艦ワリヤーク号の艦上で使用されていた鐘。ワリヤーク号はアメリカのフィラデルフィアのクランプ造船所で建造された当

時の最新鋭艦です。

戦後、日本海軍によって引き揚げられた時、この鐘も同時に引き揚げられ、博多の磯野鉄工場の手にわたっていました。明治41年1月21日、修猷館が寄宿舎「報国寮」開設六周年を記念して、鉄工場主磯野七平（明治34年卒）から購入し、明治末から大正年間にかけて、寄宿舎生の起居を律する号鐘として用いられました。



ワリヤークの鐘

【孔子像】

東学問稽古所修猷館は、福岡藩第七代藩主黒田治之の遺命を受けて、天明4年（1784年）第九代藩主黒田斉隆の時代に開設されました。孔子像はのとき、家老大音伊織が差し出したもので、絵師は狩野典信です。同年2月6日の開校式に際し、初代総受持竹田定良は講堂正面に掲げられた画像に礼拝して孔子に告文を捧げました。その後、毎年1月8日の開講式で講堂に掲げられて釈菜の礼を行いました。現在では毎年4月の修猷館高校入学式において新入生に披露されており、その由来を紹介することにより230余年の歴史と伝統を偲ばせるものとなっています。

花盛り同窓会

同窓会総会は中止でも「フレフレ修猷！」



実行委員長

柴田 修

(平成3年卒 讃猷会)

全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年度の修猷館同窓会総会、OBゴルフ大会、キャリアセミナーは、すべて中止となりました。戦後、現在の同窓会組織が発足して以降、毎年開催されておりました総会の中止は、初めてのことでないかと思えます。

我々平成3年卒「讃猷会」は、総会の約2年半前から、体制づくりや準備を本格化し、令和元年度の同窓会総会での幹事学年の引き継ぎを経て、準備を加速していきました。

総会に向けた準備の中で、思い出はいろいろとありますが、私の中では、全国各地の同窓会支部での総会PRのキャラバンです。6月初旬の中京修猷会、東京修猷会に始まり、北は東北から、南は沖縄まで、全国各地の同窓会支部の総会や忘年会に

参加し、総会のPRをさせていただきました。福岡から出向いて、現地に住む同級生との久しぶりの再会もあり、ながら「大人の修学旅行」といった感じで、いい思い出になっています。

また、各学年の同窓会、部活動の同窓会総会、忘年会等にもキャラバンでお邪魔しました。特に学年の同窓会が集中する正月には、1月2日から4日にかけて、約30か所を5班に分かれてPRいたしました。キャラバンでは、皆さまに温かく迎えていただき、大先輩から若い世代まで、世代を超えて幅広く交流させていただきました。また、チケットや記念品の購入など、多大なるご支援・ご協力を賜りました。時には先輩方から「もっとしっかりとやらないかんぞー」と愛情に満ちたご指導を頂戴したこともございました。こうした活動を通して、先輩、後輩の皆さま、そして同期との「素敵な縁」ができ、「修猷でよかったな」と実感する日々でした。

年が明け、準備も佳境に入ってきた令和2年2月頃から、新型コロナウイルス感染症の報道が大きくなりはじめ、懸念はしておりますが、「暖かくなればすぐに終息するだろう」と、当時はよもや総会が中止になるとは思っていませんでした。しかしながら、学校の臨時休校、そして非常事態宣言の発令と事態が急転し、総会の50日前となる4月9日に正式に中止が決定されました。幹事学年としては断腸の思いでありましたが、館友の皆さまの健康と安全が最優先ですので、致し方ない決定でございました。

中止決定後は、館友の皆さまへの中止のご連絡と、すでにご購入いただいたチケットの払い戻しを、各学年の常任幹事の皆さまのお力添えもいただきながら進めて参りました。もしかしら中止を知らずに来られる方がおられるかもしれないと、総会開催予定日の5月29日に、会場となるホテルオークラ福岡でも待機しておりました。幸いお見えになる方はおられませんでした、本来であれば館友の皆さまに楽しく歓談していただき、幹事学年として達成感のピークであるはずの総会当日に、来るはずのないお客様を出迎えるというのは、この上なく切ないものでした。

先輩のお話では、過去にも、福岡県西方沖地震や東日本大震災などの影響により、総会の開催が危ぶまれたことがあったと聞いております。これまで当たり前に同窓会総会が開催できたのではなく、代々幹事のバトンを受け継いできた先輩方の情熱と努力、そして修猷館同窓会の英断により、「奇跡的に」同窓会総会が毎年継続して開催することができたのだと感じています。

我々讃猷会は、甲子園への夢が絶たれた高校球児のように、幹事学年としての活動が、総会直前に突然終了することとなり、皆さまをおもてなしするために進めてきた準備をご披露できなかったこと、そして自分たちの思いを総会開催という形で実現できず、「何でこんな年に当たるのか」と、正直悔しい思いもしており、中止決定後は涙する日々でした。

周囲の修猷関係者以外の方からは、「たかが同窓会の幹事じゃないか」とか「大変な仕事がなくなつてよかったじゃないか」といった風のことを言われたこともありました。しかし、今回総会が中止になって、修猷の卒業生、そして幹事学年にとって、総会がどれだけ大切な「場」と「時間」であったのか再認識したところでございます。

新型コロナウイルス対応の長期化が予想される中、「新たな生活様式」が求められております。これまで同窓会総会は、ホテルの大宴会場で千数百人の館友の皆さまが一堂に会し、飲食を共にしながら、語らい、歌う、いわば「究極の三密」の場でありました。感染拡大の終息やワクチンの開発など、大きく環境が変わらない限り、来年以降、これまでと同様の形式で総会を開催することは難しいのかもしれませんが、しかしながら、これまで修猷館が、伝統を継承しながらも、時代の変化に即して、苦難を乗り越え、生成発展してきたように、これを機に同窓会総会の在り方も新たな形に進化を遂げるものと信じております。

新型コロナウイルスの感染状況が見通せない中、来年度幹事学年を務める平成44年卒「朋猷会」は、準備で集まることもままならず、支部総会の中止などによりキャラバンもできず、私たち以上に大変な思いをされていることと思います。今年開催できなかった私たちの思いも引き継ぎつつ、同じ「コロナ世代」として全面バックアップしながら、来年の総会が無事に開催さ

れるよう支援していく所存です。

私たちの同窓会のテーマは、それぞれの場所で頑張っておられる館友の皆さまを応援しエールを送りたい、そして、東京2020オリンピック・パラリンピックにちなんで、「2020修猷（フレフレ修猷!）」としておりました。総会は残念ながら中止となりましたが、同窓会活動は今後長く続いていくものですので、これまで以上に修猷館同窓会、そして修猷館高校を応援し、盛り立てていくことで、総会に向けてお世話になった館友の皆さま、関係の皆さまに恩返しをしたいと思います。

私が、同窓会総会で一番好きな時間、それは館歌斉唱です。旧制中学時代の大先輩から卒業して間もない新入会員まで、それぞれ修猷館で過ごした時代や空間は異なりますが、変わらないのは館歌です。館歌斉唱で会場が完全に一体となり、歌声だけが高らかに響くあの瞬間、修猷の長い歴史の中で、自分がその一員として身を置くことができている幸せに包まれ、毎回鳥肌が立ち、身震いしています。

再び同窓会総会の会場で、館友の皆さまと館歌斉唱できる日がくることを祈りつつ――
「フレフレ修猷!」

※チケットの払い戻しについて

令和2年度同窓会総会チケットをお持ちの方は、令和3年5月29日までチケットの払い戻しにに応じております。左記のメールまたは電話宛に、チケット裏面に記載の4桁の番号、氏名、卒年、振込先口座情報をご連絡ください。確認の上、払い戻しいたします。

メール：sanyukai2020ticket@gmail.com

電話：050-5362-9689

東京修猷会総会 延期の報告



実行委員長

岡 武 志

(平成6年卒 六星会)

去る4月16日、令和2年6月12日に開催する予定であった東京修猷会総会の中止が公表されました。東京ではオリンピック開催のお祭りムードで盛り上がりつつあった年末から急転直下オリンピック延期が決定され、福岡総会の中止の発表に呼応するように東京修猷会総会も中止とする異例の事態となりました。

ご縁あつて実行委員長を拝命し、それまで右も左もわからなまま、迫る期限に追われて準備や仲間集めに奔走していましたが、志半ばに中止となり、もう一年総会準備を六星会で積み上げることになりました。この情けなさ、虚無感は身に覚えがあるなと思ひ巡らせますと、大学浪人したときの感覚でした。応援していただいた大先輩から学生までの館友の皆さん、丁寧にサポートしていただいた執行部の先輩方、仕事、家族、又は他の飲み会と折り合いをつけ集まり準備を推進してくれていた全国の六星会の同期たち、会場を提供してくださるホテルのご担当等々多くの人たちの落胆の顔が思い浮かびました。

そして時間がたつのも早いもので総会幹事学年2回目の秋が

やってきました。

来年の東京修猷会総会は令和3年6月11日開催と予定日は設定されましたが、令和2年10月現在、まだ新型コロナウイルス感染拡大の先行きは不透明なままで、具体的な構想は手探りの状態です。この大変化は館友の皆様の日々の生活にも間違いなく少なからず影響を与えているはずであり、来年の総会への出席をご案内する状況なのか、ご検討いただける状況なのか、案ずることばかりです。しかしながら、この社会環境の劇的な変化や行動の制約から、新しいアイデアが生まれ、これからの東京修猷会にも進化をもたらし可能性を感じております。例えば、準備の打ち合わせは全てオンライン会議に変わりました。昨年実施した打合せはほとんどが飲み会を兼ねておりましたので、同期と集まってワイワイやる機会がなくなつたのは大きなマイナスですが、よく言えば会議が短く効率的になつたかもしれません。また、今回福岡総会に倣って東京では初めて記念品のインターネット通販を始めました。本年6月の総会で販売する予定であつた記念品を、対面の販売機会が少ない東京において機会をご提供するものですが、今後の試金石になればと思つております。リアル開催、オンライン開催など開催方法の議論は、同窓会とは何か、東京修猷会総会とは何か、改めてその意味を問い質してくるようでもあります。

いつもご指導いただいている執行部の諸先輩方はじめ多くの館友の皆様からも改めて鼓舞いただきました。我々六星会には、令和元年度東京総会実行委員長の平成5年卒GO猷会渡邊先輩

から引き継いだ東京修猷会総会の灯をしっかりと平成7年卒七猷会の吉田君につなげ、東京修猷会の灯を絶やさないという使命があります。令和3年総会の開催がまずは目標ですが、コロナ禍の縮小開催にとどまることなく「新しい生活様式の東京修猷会総会」の始まりとして記憶に残る総会になるよう邁進する所存です。

何卒引き続き温かい応援よろしくお願いします。

第45回近畿修猷会総会のご報告とお礼

ーウィズコロナ時代のリアルとー

オンラインのハイブリッド型総会ー



近畿修猷会 学年幹事

国 武 勇 志

(平成元年卒)

近畿修猷会2020年学年幹事平成元年卒の国武勇志と申します。

去る2020年11月14日(土)に第45回近畿修猷会総会が開催されましたのでご報告させていただきます。

本総会は、新型コロナウイルス感染対策の観点から、幹事の皆様とも何度もお話し合いを重ね最終的には、リアル(会場)とオンラインのハイブリッド形式で開催する事となりました。

リアルの方が63名(梅田スカイビルタワーウエスト22階E会議室)オンラインの方が34名(ZOOMシステム)ご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。

また、当日は水分補給時以外会話の際も必ずマスクを着用していただく、入場の際に検温をする、手指のみならず、マイクなどの設備もこまめに消毒するなど考えられる万全の体制でございました。



厳しい環境の中、文化功勞者を顕彰されました京都大学名誉教授の興膳宏先輩（S32年卒）はリアルでご参加いただき、「律詩の形成に至る道ー中国文学理論研究の一断面」と題してご講演いただきました。高島館長・川崎同窓会会長も直接会場でご挨拶賜り、現在の修猷館のご様子について教えていただきました。また東京修猷会の伊藤会長からはビデオでのご挨拶を賜りました。

新しい形式にも関わらず柔軟にご対応いただき誠にありがとうございました。

また近畿修猷会総会恒例のクラブ活動報告ですが、新型コロナウイルスの厳しい環境の中、少しづつ活動を再開されていて、コロナに負けず、環境に柔軟に対応しつつという「修猷魂」を垣間見させていただき、大変頼もしく感じました。

「館歌斉唱」「彼の群小斉唱」は声を出さずに心の中で唄っていたたく、「黙唱」の形をとらせていただきました。音楽を聴くだけになってしまうので、実際皆さんの反応はいかがなもの

かと心配しておりましたが、「心の中で唄ってみるのも新しく、また心に響くものがあつた」との嬉しい感想もいただきました。学生の方もご参加いただき、厳しい環境の中、しっかりと頑張っておられるとの心強くもさわやかなご挨拶をいただき、参加者一同熱心に耳を傾けられていました。

開催にあたりましては、仕事や家庭の事情からリアル参加が難しいガンガン会メンバーもおり、その点率直にご相談したところ、幹事団の皆様から「全面的に協力する」との温かいお言葉を頂戴し、安心して準備に努めることができましたし、当日は幹事の皆様をはじめ、先輩方や後輩たちが総会の運営に快くご協力いただき本当に感謝しております。

今年1年間の幹事年を振り返りますと、新年会終了後は判断の連続でした。

春イベントの開催は？感染対策は可能か？春新聞の発送は密にならないか？秋イベントは大阪の緊急事態宣言がある中どうするのか？

さまざまなお意見がある中、同期の皆とまた諸先輩方と話し合いを重ねました。

このような先の見えない状況であれば、何が正解かは誰にもわからないかと思えます。

ただ、同期の皆と交わした本気の議論、先輩方とのさまざまな意見交換は、間違いなく今後の宝になると考えております。今年のテーマは「二新紀元」――つなガンね！修猷の輪！――「二新紀元」は新しい時代のはじまりの意味です。ある意味

本当に前例のない新しい時代がはじまってしまいました。しかしながら、我々ガンガン会はオンライン会議システムという新しいツールによってテーマ通り、空間を超えて「密」につながる事ができました。

総会開催に際しては、

「前代未聞の環境の中、新たな形式に挑戦されて大変でしょう」とありがたい労いのお言葉をたくさん頂戴いたしました。

確かにはじめての形式で戸惑いながら準備をしたのですが、その分オンライン会議システムというツールを使う事ができるようになり、もしかすると例年よりも頻回な打ち合わせが可能だったのではないかと感じました。

このような環境がいつまで続くかは分かりませんが、新しい手段を得た我々近畿修猷会は、今後の会の発展のため最大限活かしていこうと考えています。

末筆となり恐縮ではございますが、医療関係者をはじめ、コロナ禍で大変なご苦勞を強いられているお仕事の方も多くいらっしゃると思います。

心よりお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

オンライン授業

修猷館ホームページから

令和2年5月11日（月）、本格的なオンライン授業がスタートしました。もちろん本校236年の歴史の中で初めての試みです。

情報委員会の職員を中心として入念な準備を行い、全職員で研修を重ねての開始でした。本校は既に撮影し終えた動画を配信するという「録画配信型」の授業ではなく、授業をオンタイムで行う「ライブ配信型」の授業を行いました。朝9時から生徒と教員とが同じ時間を共有し、「Teams」「Zoom」「Stream」等を利用した授業は、2週間に渡って計172講座が実施されました。教室に備え付けのパソコンやプロジェクタ等ICT設備を駆使し、初めてカメラの前で授業を行い、大きな達成感を感じた職員もいましたが生徒のみなさんはどのような感想を抱いたのでしょうか。

今回は新型コロナウイルス感染防止のための休校に伴う措置でしたが、「未来の授業、将来の修猷館」につながる出来事でもありました。



NET
(NativeEnglishTeacher)
の授業



オンライン授業
スタートの瞬間(物理)

〽支部だより〽

大分修猷会

修猷2年生大分研修旅行顛末記

令和2年10月1日～3日の間、修猷館の現役2年生430名が大挙して、大分県に研修旅行でやってきました。思いがけない出来事でしたが、幸い好天に恵まれ、大分県内を中心に各地に移動して研修の実を上げたようです。

7月のある日、職場の電話が鳴りました。相手は修猷館館長の高島先生。何事かと思いきや、「10月に2年生の研修旅行で大分にお邪魔したい。支援を頂けないか？」との内容でした。本来なら関東地区に出かけ、大企業、中央官庁、研究所などの見学を通じて、将来の自分たちの活躍の場を探るための研修が行われるところだったようです。しかし、このコロナ禍の中、これが叶わず、新たな研修先を探っておられたようです。種々の研修ができ、万が一、生徒へのコロナ感染が起こっても車で素早く、福岡市内に戻る地域ということで「大分」に白羽の矢が立ったようです。ただ、当方としても感染者が大分より圧倒的に多かった福岡の地から多くの生徒たちを受け入れることには、少なからず戸惑いもありました。生徒たちの訪問先で対応

して頂く大分の方々が、後輩諸君を温かく受け入れてくださるかの心配も頭をよぎりましたが、とりあえず全面協力をお約束した次第です。もしかすると、状況次第では、10月に至るまでの段階で大分研修中止もあり得るとの覚悟の上でもありました。そうこうしているうちに、9月に入ると、修猷館で運動会が実施されたというニュースが飛び込んできて、大分研修旅行の実施が濃厚になったとの覚悟を致しました。こんな経緯で、受け入れ当日を迎えることになりました。特に、10月2日は生徒全員が9つの班に生徒たちの希望に従い分けられ、それぞれの班が大型バスで目的地に散って行きました。「医学系」を目標とする生徒たち向けには大分大学医学部の津村弘教授（昭和49年卒）の計らいで、大分大学において医学に関する充実した体験型研修が行われたようで



COMICO ART MUSEUM (隈研吾設計)

す。私が担当した班は将来、「建築」を目指す生徒40名弱で構成されていました。「建築」を目指す生徒たちには私から、事前に「大分地域の文化と大分の建築」を紹介する講演を致しました。午後からは、大分市内にある坂茂氏設計の「大分県立美術館」を見学後、湯布院に移動して、点在する有名建築家設計による建築群の見学に私がガイド役として加わり、それぞれの建物について説明を致しました。建築見学先等では、生徒から熱心な質問も飛び交い、充実した見学になった様子でした。これは後日、送られてきた生徒たちの研修レポートからも伺い知ることができました。見学翌日には、研修内容の報告会が宿泊ホテルで実施されたようです。

このような顛末でしたが、大分修猷会として十分なお世話ができたかどうかは、自信はありませんが、少しでも後輩生徒たちの将来設計に役に立てたのなら存外の喜びです。

会長 井上 正文（昭和44年卒）

宮崎修猷会

平成31年度の年次総会および懇親会は令和2年1月25日に開催されました。来賓として、修猷館高等学校を代表して高島館長、同窓会本部より川崎会長および田中事務局長のご臨席を賜りました。また、令和2年度修猷館同窓会総会の幹事学年であ

る「讃猷会」から3名のご参加をいただきました。総会における活動報告に引き続き懇親会では、来賓の皆様にご挨拶をいただきました。現役館友達の活躍や、同窓会の近況をお聴かせいただきました。会の中程では、「讃猷会」のみなさまから令和2年度同窓会総会の開催案内をしていただきました。その後も和気藹々と懇親会は進行し、館歌斉唱をもって楽しい会も閉会となりました。

みなさまご存知のように新型コロナウイルス感染が拡大し、令和2年度同窓会総会が中止となつてしまいました。入念な準備を進められた「讃猷会」のみなさまにおかれましては、苦渋の決断であつたかと思ひ、心中お察し申し上げます。この場を借りて、開催準備に奮闘された「讃猷会」のみなさまに、心より感謝申し上げます。

宮崎修猷会は小規模な会ですが、アットホームな雰囲気集まりです。宮崎へ転入される館友の方は、是非、宮崎修猷会へご参加ください。お待ち申し上げております。

事務長 光田 靖（平成5年卒）

中京修猷会

2020年の中京修猷会は新型コロナに翻弄された1年となり、2大行事である総会、忘年会を始め予定していた行事は全

て中止を余儀なくされました。

総会中止は初めてのことで、幹事会にて郵送による議案送付を確認し遠隔開催としました。15年に亘り幹事長を務めた満生氏（昭和45年卒）から川野（昭和54年卒）への幹事長交代の他全議案が了承されました。

年間行事では、大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公「明智光秀ゆかりの地」巡りや酒蔵訪問を企画していましたが、来年以降の持ち越しとなります。会報「猷交」は、計画通り3号（65号〜67号）を発行しました。行事報告に替え、コロナ禍での会員の奮闘振りを紹介する等工夫を凝らした内容としております。新たな取り組みとして、活動の中心である愛知、岐阜、三重3県に加え、静岡西部、長野、北陸の館友の皆様に活動の紹介や参加の呼びかけを計画しています。中京地区は転勤等による人の入れ替わりが多いのが悩みの種ですが、地域の特長を生かし和気藹々とした活動を行っています。中京地区にお住まいの方、初めて中京地区にいらした方もお気軽にご連絡ください。

川野 靖史（昭和54年卒）

東北修猷会

昨年は東北修猷会が設立されて、10年を迎える節目の年でした。しかし、遺憾ながらコロナウイルス感染の影響で、12月の

記念すべき総会も中止せざるを得ませんでした。また、10月に予定されていた修猷館の関東研修旅行（福島訪問も含む）も九州内での研修に変更されました。さらに、東北の夏祭りも仙台七夕はじめ、ほぼ全ての祭りが中止となり、今年の東日本大震災から10年目となる節目の前年としても寂しい年となりました。

一方、東北修猷会として、企画も行えないなか、嬉しいことがあります。修猷館時代、東北研修旅行幹事として活躍し、卒業後東北大学に進学し、各地での災害支援ボランティア活動を熱心に続けてきた山本賢君が昨年3月に卒業し、東北地域で就職することと、送別会を行いました。コロナ感染の矢先でしたが、注意しながらも、温かい送別会となりました。勤務地は福島とのことでした。



そして、その後更に嬉しいニュースがご本人から届きました。大学時代のボランティア活動で知り合った女性と結婚し、仙台とともに暮らし始めるという知らせでした。お祝いの会については、詳細は決まっていますが、東北修猷会設立10年と山本賢君夫妻の新たな出発を祝うイベントにしたいと思っています。

会長 出納 克彦（昭和45年卒）

中国四国修猷会も本部・他支部と同じくコロナ禍で2020年の行事は全て中止となっています。つきましては、この機会に4年前に中国四国修猷会が発足した経緯を記録として残しておきたいと思います。

中国四国修猷会設立のきっかけとなったのは、6年前の平成24年1月24日の中国新聞の記事でした（写真・参照）。広島を本拠地とする中国新聞に載ったこの記事は、広島県廿日市市に住む藤野善武先輩（S38卒）の心に強く残りました。その後、この記事に書かれている浦越さんが広島大学に進学したことを知った藤野先輩は、広島【さんばち】（S38卒）の先輩2名と共に、浦越さんを初めとする5名の平成25卒の広島大生と交流の機会を持つことができたそうです。その際、「さんばち会」の先輩は「君達が卒業するときは広島で修猷館同窓会を作って

祝っちゃる！」と約束したそうです。平成29年3月5日の中国四国修猷会設立はこの約束を果たしたものです。

第1回総会開催にあたってはゼロからの出発で、案内も広島県及び山口県岩国市在住の110名の館友に限られていたため、20名も集まれば上々と考えていましたが、蓋を開ければ、来賓3名・キヤラバン隊3名を含め49名参加の大盛会の内に終えることができました。

第4回総会をいつ開けるか不明ですが、お時間と懐が許せば是非ともご参加いただきますようお願いします。

会長 河野 浩（昭和46年卒）

[illegible]

沖縄修猷会

新型コロナウイルス感染症の収束の目処は立たず、インフルエンザの流行期である冬を迎えて予断を許さない状況が続いております。沖縄県は、県別人口比で感染者数が多い状況が継続し、県内での飲食を伴う会合には自粛要請がでいております。状況を踏まえ、今年の沖縄修猷会総会・懇親会は中止とさせていただきます。何もないのは忍びないとのこと要望を受けて、11月14日に代替企画ZOOM懇親会を開催しました。オンライン懇親会では若い会員の参加を期待していましたが、予想に反してシニアの会となりました。沖縄修猷会の特徴を反映して、東京、福岡、大分の遠方からの御参加を頂き、沖縄在住の参加者は2割という結果でした。当日は、大いに「密」なりモート館友交流を持つことができました。沖縄在住・非在住に関わりなく、「緩い」沖縄修猷会に御興味のある方、11月に沖縄旅行をご計画の方々は、是非ともご一報をお願いします。一見さんも歓迎いたします。

山崎 秀雄（昭和55年卒）



〓周年行事〓

卒業三十五周年同窓会を振り返って

学年幹事

藤村祥子

(昭和60年卒)

昭和六十年卒業の私たち「獣馬会」は、昨年(令和二年)一月二日に、ホテルオークラ福岡にて卒業三十五周年同窓会を開催しました。

当日は、私たちの恩師である安永波恵先生、田浦賢治先生、水田勝也先生、小島一義先生、そしてはるばる鹿児島からお越しいただいた新納雅樹先生の五名をお迎えし、同級生は八十四名が参加する盛大な会となりました。

会の始めは物故者への追悼の意を込めて黙祷を行いました。

さて、これまで二十代終盤から五年毎に開催した獣馬会の周年同窓会では、幹事がお祭り好きという傾向もあり、振り返れば様々な企画を行って来ました。「行ったらなんかある同窓会」です。「ブロック別応援歌選手権」、「県民体操記憶力(体力)選手権」、「懐かしの西新グルメ探訪ロケ」、「文化祭男クラ製作映画『スリラー』鑑賞会」、「予餞会もどきの」ざっくりばらんな中年の主張大会」等々。

しかし、「天命を知った」はずの私たち(はて?)。もうそろそろ落ち着いてもよからう。いやいや何より「今、ここ」に集まった貴重な時間をそれぞれに自由にじっくり語り合う時間を大切にしようではないかと、今回は「大きな企画モノ」は行わず、歓談の時間を多く取りました。

歓談の中盤以降はプチ集合写真撮影会です。

当日ご欠席の方にも後から共有できるように写真共有サイトを準備し、QRコードをお知らせしました。

クラスごと(一、二年次のクラスも)、部活ごとに集まり、次々と撮影しますが、ここでホワイトボードを準備しました。

卒業はやほやの皆さんには想像もできないことでしょうが、悲しいかなおじさんおばさんは、多数の写真が掲載されたものをぼんやり眺めてもまず老眼でよく見えない。スマホ画面をぐいっと二本指で拡大しても「この人誰かいな(判明困難な理由は様々)」、「この写真、何組やったつけ?」記憶を辿るいとぐちとなるのが真ん中の人が持った「〇組」または「〇〇部」のホワイトボードです。

撮影前には複数のホワイトボードに「(次は) 〇〇部」「(次の次は) ××部」と場内を廻り案内します。歓談の傍ら、目にしたメンバーは事前に舞台袖に待機していただき、スムーズに撮影が進む段取りです。

とは言うものの「さっきまでおったのに〇〇がおらん。」「なんか違う部活やけど入らせてー。」と、てんやわんやの横顔もパチリ。「帰宅部」メンバーの予期せぬ盛り上がり。

「あれ？なんでお前おるとやー」

同じオークラの別会場で開催中の、ひとつ下（六十二年卒）のメンバーが、いつの間にか混じっていたりと、大笑いしつつの楽しいひとときでした。

場所を変え、同じオークラの地下ブルワリーには二次会から参加のメンバーも加え、さらに歓談の輪が多くなりました。

歓談の中でちらりと聞いた言葉がありました。「全体の同窓会（の幹事学年）の時、来れなかったけど来ていいとかいなくて思いよった。来てみたら結構知つとう人おるっちゃね。」嬉しい言葉でした。

ご実家が福岡になく、年末年始にわざわざ福岡へ足を伸ばすことが難しい方もいるでしょう。帰省はしているものの「嫁仕事」やらなんやらでパーティに外出できない方もいるでしょう。「なかなか顔出せなくて。」そんなことはいいんです。

今、ここにささやかな時間を共にしていること。その場にいない人、いない人をお互いが想うこと。写真を後から見て楽しんでいただけること。これほど貴重なことがあるでしょうか。

東京近辺のメンバーは、毎年忘年会や一時帰国者を囲む会、女子会日帰り旅行なども楽しんでいます。

どうぞそれぞれの場所で「二人会つたら獣馬会」のノリで繋がっていきながら良い齢を重ねていけたらと願っています。

今回多くの素敵な写真を撮ってくれた写真班のみなさんの成果を、初めて「フォトブック」という形にし、お越しいただいた恩師にプレゼントさせていただいたところ、大変喜んでいた

だけたことを末筆ながらご報告いたします。

今、ここにいること。一年経った今日も、これからも繋がっていきますようにと祈ります。



ノストラダムスと2000年問題



常任幹事

松尾 光泰

(平成12年卒)

私たち平成12年卒の卒業年は西暦でいうと、2000年という歴史的節目の年にあたります。2000年に年が変わる1999年の大晦日には、世界中のコンピュータが狂う「2000年問題」と世界の終わりを予言した「ノストラダムスの大予言」により、世の中は大混乱になるのではないかと、いう心配は杞憂に終わり、高校三年生の私たちはゆくゆく年を見るながら除夜の鐘と共に、平穏な20世紀最後の年を迎えたのでした。

そんな青春時代を過ごした私たちも、気づけばあつという間に社会の中核となり、不惑手前の年となりました。

2020年に修猷館卒業20年を迎える、と気づいたのは2019年1月某日、出張で訪れていた東京新橋の居酒屋にて、3年9組の馬淵健君と話していた時でした。

「みんな仕事に家庭に忙しいけれど、1000人は集まりたい…」

そのためにもまずは日にちと場所を決めてしまおう。我々は独断で開催日を1月3日と決め、その場で西鉄グランドホテルを予約し、こうして私たちの同窓会計画はスタートしました。

まずは志を同じくする同志集めです。3月、10年前の同窓会幹事をしてくれたメンバーを中心に声をかけ、定期的に集まって準備していくことを決めました。

とは言え、事はそんなにスムーズに、円滑には進みません。

まず第一の関門で立ち足はだかったのは、「連絡先」です。クラスつながり、部活つながり、個人的な今の関係、様々なつながりを駆使しても、各クラスに連絡が取れない同級生がいきました。同窓会の参加については皆事情があり、強制はできないけれど、知らなかった、ということは無ないようにしたい。クラス幹事が最初から最後まで心血を注いだのは連絡を取ることでした。これは、常々先輩からも言われていたことで、SNSの発達など昔よりは格段に接触はしやすくなったものの、100%には至りませんでした。

次に困ったことがありました。

月一程度、幹事で集まって酒を飲みながら同窓会の打ち合わせをするのですが、久しぶりに会う仲間、酒と話が進まない訳があります。打ち合わせ、をしていたのですが、いつの間にか飲み過ぎてペロペロになってしまい打ち合わせどころで無くなる。これに関しては、柔道部田中ヤス君が「打ち合わせと飲

みは分けた方が良い。飲みは打ち合わせ後にできる」と至極明快な提案を出してくれて、解決することができました。

時は流れ、秋も深まってきた11月某日、私と剣道部川瀬君の二人で西鉄グランドホテルに会場下見に行くことになりました。ここでもちょっとした事が起こりました。

会場を見学し、全体の席レイアウトや受付の設置など確認したのち、プランの打ち合わせを…と担当の方に通されたのが1Fブライダルサロン。一生の記念になるウェディング、ドレスは…引き出物は…と希望とワクワクいっぱいのカップルたちに囲まれながら、我々おっさん二人は、飲み放題のドリンクにウィスキーが必要か、お土産に蜂楽饅頭を渡す場合、蒸気で皮がシワシワになるのでは無いか…という問題を真剣にホテル担当と話していました。

12月に入り、開催まで一ヶ月を切り、打ち合わせもいよいよ熱を帯びて来ました。当日の司会進行、オペレーション、先生にお願いする挨拶、予算配分、二次会はどうするか、など活発な議論がされていました。中でも「修猷クイズの問題作成」と「お土産をどうするか」は皆思いがあり、かなり白熱したものとなりました。「修猷クイズ」については、東京からオンラインで会議参加していた森功次君がまとめてくれることとなり、事なきを得ました。お土産については、第一候補となっていた、「かりんとドーナツ」は唐人ペーカリーが当日休みのため泣く

泣く諦め、最終的に前述の蜂楽饅頭に決まったものの、今度は黒餡と白餡の購入比率が問題となりました。黒餡派、白餡派と喧々諤々の議論の末、餡問題については、半分半分とする、どちらか選ぶ事は出来無い、というオペレーションにて解決しました。

そして、いよいよ迎えた2020年1月3日、西鉄グランドホテルにて卒業20周年同窓会を無事に開催することができました。このころは未だ、コロナウイルスという存在が顕在化しておらず、今となって考えたと本当にギリギリのタイミングであつたと、なんとも言えない気持ちで今、文章を綴っています。

参加人数は目標であつた100名を超える130名、また、先生方も糸山先生、辻先生、田原先生、寫末先生、三池先生、永淵先生、関先生、桂田先生8名にご参加いただきました。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

運動会の動画を流すために私が準備していたプロジェクターが起動しない、というトラブルにもサッと対応してくれたラグビー部長谷川毅君がとう。運動会のバケツカルピスの味の濃さを拘って作ってくれた、バスケット山口大輔君、ありがとう。森功次君渾身の修猷クイズは先生方も真剣にお答えいただき、クラス毎にみんな楽しんでくれたと思います。

また、この場を借りて我々平成12年卒同窓会は、「ミレニアム会」として活動する事を宣言し、満場一致で承認を得た事を

ご報告致します。

予定していた2時間はあつという間に過ぎていき、締めめの館歌指揮はこれまた急遽引き受けてくれた山岳部井原君本当にありがとう。最後、手土産で危惧していた餡問題もトラブルなく皆蜂楽饅頭を食べながら無事に会を終えることができました。

引き続き二次会も一次会の盛況そのままに、全クラス合同開催で83名が参加してくれました。乾杯の発声をしてくれた城島君ありがとう。そしてその後、急遽開催した三次会にも44名が残り、とても良い一日を過ごすことができました。私は最後に寒空の下5〜6名で長浜まで歩き、元祖長浜家で締めたことをここに報告しておきます。(翌朝後悔したことは言うまでもありません。)

高校時代の文化祭も運動会も、何が楽しかったかというよりはそれは「準備」でした。

当日は進行に一生懸命で、気づけばあつと言う間に過ぎ去ってしまいました。準備の時に起きたハプニング、仲間との喧嘩、涙、和解……それらは僕らの記憶に深く刻まれ、いまでも活き活きと自分を作る糧となっています。

仕事に家庭に本当に忙しいなか、卒業20年の同窓会準備をしてくれたクラス幹事のみんな、本当にお疲れ様でした。今、この文章を書くにあたって、やり取りしていたLINEを読み返しています。みんな仕事中と思われる昼間もレスポンスよく、真剣な返答に一人ニヤニヤしてしまいます。

コロナ禍を経た今は、本当に「集まる」ということが難しくなつてしまいました。同窓会も今後どのように開催することができるのか、模索をしてみなければなりません。

ただ、どんなに離れていても、いかに時が過ぎようとも、あの学び舎で過ごした仲間とは、一瞬であの頃に戻れる魔法がかかっています。変化と混沌の21世紀、どんなことが起きようとも修猷魂を胸に、年を重ねていきたいと思えます。



学年一口連絡アンテナ

【昭和26年卒】 例年通り、仁録会・大漫会（関東）・進参会（関西）の会員より、三ヶ月毎にハガキ一枚に近況を記入してもらい、事務局で小冊子にして配布しています。特に健康や行動に関心が集中しています。今月の発行で「一四五号」になります。

中里 公哉

【昭和29年卒】 六八会の皆さん如何お過ごしですか。コロナの為R二年は春秋共に、東京も十一月の会が中止になりました。この間、長年六八会を支えてくれた、久野吉人君、長野倬士君他、田尻邦重、安藤郁哉、上田英喜、空閑（白垣）須美子、古賀克彦、橋本高明、山中健彦、吉田義一、原田敬祐の諸兄姉が先立ちました。黙祷。又会う日迄人生の達人を発揮しましょう。

岡村 祥三

【昭和32年卒】 三二会月例の集まりはコロナ禍の今も続いている。二木会は同窓会館で囲碁。三木会は総合情報交換に名を借り新天町で呑み会。第三波だと全国が身構えた十一月も平和楼に八人が顔をそろえた。「男の平均寿命八十一歳四か月は過ぎたけん、これからはオマケ」と開き直り気味。だが八人中三人は女性。女子会化が早まったのかも。

水迫 裕幸

【昭和33年卒】 さんざん会の皆様には、一昨年の11月に満80才

を記念して同窓会を福岡市のソラリアホテルで開催しましたが、その後は折からのコロナのため、同窓会をはじめ各種の幹事会も開催することが出来ませんでした。今年は皆82才を迎えることもあつて一堂に会し、各々の元氣ぶりを語り合えるものと考えています。

入江 正徳

【昭和34年卒】 三思会では、福岡、東京、近畿の各地と連絡をとりながら活動してきました。三思会福岡では例年同窓会総会の二次会、夏のビール会、オクトーバーフェスト、暮の忘年会とにぎやかに集まってきました。昨年は新型コロナウイルス感染症のため、全部中止しました。皆いまだに意気軒昂ですが昨年80才になりました。充分気をつけてお過ごし下さい。

三思会福岡事務局 古賀 秀策

【昭和36年卒】 三六会の皆さんお元氣ですか。今年は卒業してから六十年、還暦同窓会の年です。でもウイズコロナと五輪前後の混雑、それに我々の年齢を加味すると、開催して良いものかどうか、迷っております。決行？一年延期？断念？…皆様のご意見を聞かせてください。（令和二年十一月）

田中 敦

【昭和38年卒】 さんばち会の横倉義武君が福岡県医師会会長の後、日本医師会会長を8年3ヶ月務め、その間、世界医師会長もされました。

原田義昭君は衆議院議員総選挙で8回当選され、環境大臣も

されました。

同級生として誇らしい思いです。

さんばち会事務局 友延 明夫

【昭和41年卒】 2021年の福岡よいよい会新年会は残念ながら中止です。昨年の東京よいよい会の忘年会も中止となりました。もう間もなく後期高齢者となりますが、まだまだこれからです。2021年を良い年にしましょう。

渡邊 章

【昭和45年卒】 昨年「四の五の会」は、卒業五十周年を迎えました。二月一日には追悼法要「亡き友人たちを偲ぶ会」を行うことができました。一方、予定していた懇親会・記念行事・小旅行は、新型コロナウイルス感染が拡大している状況を鑑み開催を延期することといたしました。新しい日程が決まり次第ご案内いたします。今年も二月の新年会は中止といたしました。何かと不便の多い毎日ですが、この状況が一日も早く解消され、再び皆様にお目にかかれる日が来ることを心から願っております。

森下 七百枝

【昭和46年卒】 新型コロナウイルス感染症の状況によりますが、新年会、お盆前後の会、秋のゴルフ旅行を開催する予定です。卒後50周年イベントについては、開催時期も含めて現在検討中です。

副島 広巳

大賀 啓史

【昭和49年卒】 「よろしく会」

今年はコロナの影響で私達「よろしく会」も、福岡、東京、大阪を中心とする各地の活動はほぼキャンセルや延期となりました。五月に行うはずだった学年旅行も延期といたしました。同時にオンラインミーティングを利用して、コロナ後の実現に向けて元気よく動いていこうと思っております。

どんな時代にも対応できる柔軟さをもつて、生きていくことを学ぶ一年でもありました。

小柳 有美

【昭和50年卒】 昨年は新型コロナウイルス感染拡大により、同窓会や同窓会ゴルフ大会が中止となり、集まる機会がへりました。皆さん、お元気ですか？さて、同窓の東野純彦君が『知っておくべき産後の妻のこと』（幻冬舎）という本を出版しました。関係ないと思わずに、ご子息に、または、老後の夫婦関係のよりよき展開の為にもぜひ一読ください（読みました）。また、同窓建築家も第2作目を準備しているようです。ご期待ください。それでは、コロナが収まって皆様とお会いできる日を楽しみにしております。

五輪会 伊東

【昭和54年卒】 4月17日（土）予定の還暦記念同窓会は当面延期します。学年内のお知らせは、メーリングリスト、Facebook、合志会サイト（HYPERLINK <http://54kai.star6.jp>）を「[http://54kai.star6.jp](#)」をご覧ください。

ださい。

連絡担当 菊池 政道

【昭和59年卒】 毎年1月2日に新年同窓会、また、2か月に1回、同級生2名に講師をお願いして仕事や趣味について語っていただく「大人のキャリアセミナー」を開催しています。コロナ収束後に再開したいと思っております。

学年幹事 堀内 恭彦

【平成元年卒】 昨年の近畿修猷会総会（国武勇志実行委員長）には、たくさんの方の皆さまにご参加いただき誠にありがとうございました。コロナ禍で会場の参加者を制限せざるを得ませんでした（54名）、オンライン（Zoom）でも30名以上の参加をいただきました。

実行委員のみなさん、大変おつかれさまでした。50歳記念のガンガン会大同窓会が開催でき、みなリアルで再会できることを期待しています！

常任幹事 今泉 忠

【平成2年卒】 卒猷会の皆さん、今年は50歳を迎える年になります。我々はいよいよ半世紀の月日を生きました。でも人生まだ半分、まだまだこれからです。10年後、健康に還暦を迎えられるように頑張りましょう！そんな節目の年、我々卒猷会は近畿修猷会の幹事学年を務めます。全国の皆さんご協力をお願いします！！

児玉 啓

【平成11年卒】 平成11年卒「はよせん会」の皆様、引き続き、名簿修正へのご協力をお願いします。フェイスブック非公開グループ「修猷H11年卒同窓会」も開設しました。毎年年末（12月30日夕方、@西新）には学年の同窓会兼忘年会を開催していますので、ぜひご参加ください。別掲の連絡先一覧表にある本学年のメールアドレスまで近況等お寄せいただければ幸いです。

常任幹事 石橋 知也

【平成12年卒】 平成12年／2000年卒の皆さん、お元気ですか？去年1月に開催した卒業20年同窓会、今考えると本当にギリギリのタイミングでした。大勢で集まることの中々大変な世の中になってしまいましたが、連絡は絶やさず、また笑顔で会いましょう！

松尾 光泰

【平成15年卒】 昨年から常任幹事をさせて頂いている田元です。卒業から10年以上経過しましたが修猷での思い出は今尚、色褪せておりません。今年はコロナの影響もあり皆様とお会いできる日を楽しみにしております。今後も修猷生の絆を大切にしていきたいと思っておりますので突然連絡をとらせて頂くかもしれません。よろしくお願いします。

田元 有紀

学校報告

令和二年 部活動

事業部 (4)

執行部・議長団・応援部・新聞部

文化部 (19)

文芸部・演劇部・映画制作部・物理部・化学部・生物研究部・数学研究部・写真部・コーラス部・吹奏楽部・美術部・書道部・ESS部・JRC部・華道部・茶道部・パソコン部・デイベート部・放送部

体育部 (16)

弓道部・剣道部・柔道部・水泳部・山岳部・陸上部・野球部・ソフトテニス部(男子)(女子)・テニス部(男子)(女子)・卓球部・バスケットボール部・バレーボール部(男子)(女子)・ラグビー部・サッカー部・ヨット部・バドミントン部

総合部 (1)

文体総合部

現在40のクラブの下で現役生は元気に活動しています。各クラブ活動については修猷館HP「部活動紹介」をご覧ください。

修猷館生の活躍

令和2年10月に開催された全国高等学校陸上競技大会2020において、3年生の徳丸涼大君が800mと1500mに出場しました。1500mでは、3分51秒98の自己記録を更新して、4位入賞を果たしました。



全国高等学校総合文化祭は中止となりましたが、全国高校新聞年間紙面審査(新聞コンクール)は実施され、昨年に引き続き優良賞を受賞しました。

令和2年10月に開催された福岡県高等学校柔道新人大会において、女子団体(2年西木、2年江上、1年姥、1年井手)で見事優勝を果たしました。また、個人戦において、57kg級で姥琳子(1年)が優勝しました。沖縄で開催予定であった九州大会は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

同窓会の歩み

- 一・九 役員会・学年幹事会合同新年会（ホテルオークラ福岡 一二二名）
 - 二五 宮崎修猷会（隠れ里の懐石料理わらしべ 高島館長・川崎会長・田中事務局長 一五名）
 - 二・一 鹿児島修猷会（ソラリア西鉄ホテル鹿児島 高島館長・川崎会長・糸山先生 三四名）
 - 一二 菁莪発送
 - 一五 大分修猷会（ホテルニューツルタ 高島館長・川崎会長・大賀幹事長 一六名）
 - 一九 修猷協会理事会
 - 二九 同窓会入会式（田中事務局長 他八名）
 - 三・一 第七二回卒業式（川崎会長・田中事務局長 他九名）
 - 四・四 令和元年度会計監査
 - 七 入学 四四一名（男子二二六名 女子二一五名）（入学式中止）
 - 五・一四 学年幹事会（令和元年度会計決算承認）（中止）
- ※修猷館創立記念講演・卒業生キャリアセミナー（中止）

- 五・二九 同窓会総会（中止）
 - 三一 OBゴルフ大会（中止）
 - 六・二二 修猷協会理事会・評議員会
 - ※中京修猷会（中止）
 - ※東京修猷会（中止）
 - ※佐賀修猷会（中止）
 - ※中国四国修猷会（中止）
 - ※生徒海外研修（中止）
 - 七 人工芝グラウンド竣工式
 - 八・二一 大運動会
 - 九・五 近畿修猷会（総会のみ）（梅田スカイビル 高島館長・川崎会長 五四名）
 - 一一・一四 高島館長・川崎会長
 - ※沖縄修猷会（中止）
 - ※熊本修猷会（中止）
 - ※熊本修猷会（中止）
 - 一二・一七 応援歌伝承会
 - ※長崎修猷会（中止）
 - ※東北修猷会（中止）
- ※毎月第2木曜日役員会（5月・8月・12月・1月を除く）
- ※名簿管理・菁莪編集・ホームページ運営・歴史伝統伝承・資料館運営
各委員会 適宜開催

役員会・学年幹事会報告

二月一三日

(1) 学校から 英イートンカレッジへの生徒派遣について

大文化祭について

部活動報告

(2) 役員会・学年幹事会合同新年会報告 122名参加

(ホテルオークラ福岡)

(3) 支部総会報告

(4) 各種委員会から

・歴史伝統伝承委員会 応援歌伝承会報告

・菁莪編集委員会 菁莪発行

・名簿管理委員会 名簿広告協賛依頼

三月一二日

(1) 学校から グラウンド東側人工芝が完成

新型コロナウイルス感染拡大防止への取り組みについて

大学入試実績報告

(2) 全国大会出場のお祝いについて

(3) 同窓会入会式について 2月29日(土)

(4) 卒業式について 3月1日(日) 簡略化で実施

川崎会長他10名出席

(5) 支部総会報告

(6) 各種委員会から

・名簿管理委員会 発行に向けて 現況報告

・HP運営委員会 ホームページ更新について

・資料館運営委員会 資料館展示スペースの増設について

・菁莪編集委員会 菁莪発送

(7) 修猷協会理事会報告

・資金運営について

(8) 令和3年同窓会総会について

令和3年5月29日(土)の実施を承認決定

幹事学年は平成4年卒

※今年度の同窓会総会について

4月の役員会までに開催の可否を決定する

四月九日

(1) 学校から 新管理職就任の紹介

休校等学校運営状況について

入学式、文化祭は中止

(2) 修猷館高校職員の転退職について 同窓会より餞別

(3) 各種委員会から

・名簿管理委員会 名簿広告料の振り込みについて

審議事項

(1) 2020年同窓会総会・懇親会の開催について

幹事学年(平成30年卒)より中止を提案

審議の結果、今年の総会・懇親会は中止

※ゴルフ大会については検討を継続

(2) 5月14日開催予定の学年幹事会について

書面での議決とする

(3) 令和2年度学年幹事会について

学年幹事会 書面決議により会の成立並びに議案は承認

報告事項

〔役員会決定事項〕

(1) 令和2年度同窓会総会・懇親会、修猷OBゴルフ大会は中止とする

(2) 同窓会総会・懇親会の担当学年の来年度への幹事持ち越しはしない

(3) 学年幹事会を文書開催とする

議事

(1) 令和元年度事業報告（案）の件

(2) 収支決算書（案）並びに会計監査報告の件

(3) 令和2年度事業計画（案）及び収支予算（案）の件

(4) 役員選出の件

六月一日

(1) 学校から 授業・部活動の再開について

大運動会は開催予定

1年生の応援歌指導について

(2) 学年幹事会報告 書面決議

(3) 同窓会総会報告 中止

(4) 支部総会報告 中京・東京・中国四国は中止

(5) 各種委員会から

・ 名簿管理委員会 名簿の発送について

多くの協賛、全学年からの協力にお礼

・ HP運営委員会 ホームページリニューアルについて

・ 歴史伝統伝承委員会 応援歌伝承会について

・ 資料館運営委員会 資料館はコロナ禍のため9月末まで閉館予定

※新常任幹事にH15年卒田元有紀氏が着任

七月九日

(1) 学校から 研修旅行 九重を検討 10月1日～3日

大運動会 県、国のガイドラインに従って実施予定

(2) 修猷協会理事會評議員會報告

(3) 各種委員会より

・ 名簿管理委員会 ご協力のお礼

・ 菁莪編集委員会

・ 歴史伝統伝承委員会 応援歌伝承会 11月頃を予定

審議事項

(1) 予算案の修正

① 幹事学年の総会等に関する損失の補填について

② 入金済のチケットについて

九月十日

(1) 学校から 人工芝竣工式について 8月21日

大運動会 9月5日 縮小・無観客で開催

(2)総会担当学年引き継ぎについて 平成3年卒から平成4年卒へ
(3)各種委員会から

・HP運営委員会 HPリニューアル完了
※H3年卒常任幹事 野村健志氏から花田由理子氏に交代

十月八日

(1)学校から 2年生研修旅行 大分県別府市を拠点に大分・熊本で研修

部活動報告 全国大会・九州大会

(2)各種委員会から

・歴史伝統伝承委員会 応援歌伝承会を12月17日に開催予定

(3)来年の同窓会総会について 幹事学年(平成4年卒)より報告
現時点では会場を押さえているのみで、会場のホテルのキャンセル料発生のため11月末までに結論を出す必要がある。

急激に現状が変わることはないかと予測し、学年の意見としては1,000人規模での開催は難しいので、会場のホテルはキャンセルする方向。
オンライン開催も想定している。

十一月二日

(1)学校から ラグビー部応援のお礼

部活動報告 全国大会・九州大会・県大会
十里踏破遠足、予餞会、文化祭 コロナ禍での実施を検討中

(2)支部総会について 熊本・長崎・宮崎 中止

大分 開催予定

沖繩 総会中止 懇親会オンライン開催

(3)各種委員会から

・菁莪編集委員会 学年一口アンテナの寄稿依頼、HPからの閲覧について

・名簿管理委員会 名簿収支の途中経過報告

(4)来年開催予定の同窓会総会について
コロナ禍の状況を考慮し、オンラインにて開催する方向で検討中

審議事項

(1)総会準備金(100万円)について

・準備金については議論を続ける

(2)オンライン開催について

・会場をキャンセルする
・オンライン開催とする

※役員会・学年幹事会合同新年会は中止し、臨時役員会を開催

第3章 学年幹事

第9条 学年幹事は全日制各年次3名以内（定時制・通信制は若干名）を選任し、本会に報告する。

第10条 学年幹事は学年幹事会を構成し、その付託事項を処理する。

第4章 会 議

第11条 総会

定期総会は原則として毎年5月30日（母校創立記念日）に会長が招集し、役員の選任・予算・決算・規約改正およびその他の会務報告を行う。

2. 臨時総会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

第12条 学年幹事会

学年幹事会は学年幹事をもって組織し、役員の選任・予算・決算・規約改正、その他会務執行に必要な重要事項を審議決定する。

2. 定期学年幹事会は原則として毎年5月の第2木曜日に会長が招集する。

3. 臨時学年幹事会は会長が必要と認めた場合、会長が招集する。

4. 学年幹事会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

第13条 役員会

役員会は役員をもって組織し、予算・決算・規約改正案の作成および会務執行に必要な事項を審議し処理する。

2. 会長は随時必要とときにこれを招集し、議長となる。

3. 役員会の議決は出席者の過半数によってこれを決する。

第5章 組 織

第14条 委員会

本会は会務執行にあたり、必要な場合に委員会を設置することができる。

第15条 事務局

本会に事務局を置き、事務局長1名、事務局次長1名および事務職員若干名をおくものとする。

第16条 支部

本会は遠隔地の会員との連絡を密にするため、必要な地に支部を置くことができる。

2. 支部の結成は代表者の申し出により、役員会の承認を受ける。

3. 支部の運営は各支部の定めるところとする。

第6章 会計および庶務

第17条 本会の経費は会費および寄付金および運用収入をもって充てる。

第18条 本会の会費は終身会費20,000円、年会費2,000円および特別会費とする。

第19条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

第20条 本会は一般財団法人修猷協会の運営管理に關しての権利は相応に保有するものとする。

第7章 補 則

第21条 本会会務の処理に必要な細則は別に定める。

第22条 本会則は昭和43年5月30日より施行する。

昭和49年5月30日一部改正。

昭和53年5月30日一部改正。

昭和55年5月30日一部改正。

昭和59年5月30日一部改正。

平成21年5月30日一部改正。

平成27年5月30日一部改正。

修猷館同窓会会則

第1章 総 則

第1条 本会は修猷館同窓会と称する。

第2条 本会は事務局を福岡市早良区西新3-12-14：修猷館同窓会館内に置く。

第3条 本会は会員相互の親睦を深め、母校の発展に寄与することを目的とし、次の事業を行う。

- 1) 会員名簿の発行
- 2) 同窓会誌「菁莪」の発行
- 3) 創立記念事業
- 4) その他必要な事業

第4条 本会は次の会員によって組織する。

- 1) 通常会員
 - イ) 福岡県立中学修猷館卒業生
福岡県中学修猷館卒業生
 - ロ) 福岡県立高等学校修猷館卒業生
福岡県立修猷館高等学校卒業生
 - ハ) 上記の学校に在籍した者で入会を希望する者
 - ニ) 福岡県立修猷館高等学校定時制卒業生
 - ホ) 福岡県立修猷館高等学校通信制卒業生
- 2) 特別会員
上記学校の教職員および旧教職員
- 3) 準会員
福岡県立修猷館高等学校在校生

第2章 役 員

第5条 本会に次の役員を置く。

会 長	1 名	副 会 長	若干名	名誉会長	1 名
常任幹事長	1 名	事務局長	1 名	監 事	2 名
常任幹事	全日制各年次	1 名 (40名以内)			
定時制・通信制	若干名				
相 談 役	1 名	顧 問	若干名		

第6条 本会役員の選任は次のとおりとする。

- 1) 会長・副会長および監事は通常会員中より役員会において選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 2) 名誉会長は母校館長とする。
- 3) 常任幹事は、原則として卒業後17～56年次および定時制・通信制会員より選出し、学年幹事会の承認を得る。
- 4) 常任幹事長は常任幹事中より会長が委嘱する。
- 5) 上記以外の役員は通常会員中より会長が委嘱する。

第7条 役員は次の任にあたる。

- 1) 会長は本会を代表し、会務を総括する。
- 2) 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はその代理をする。
- 3) 常任幹事長は会長の意を受け、円滑な会務の運営にあたる。
- 4) 事務局長は金銭の収支、会費の徴収、議事録の作成その他本会事務一般にあたる。
- 5) 監事は会計事務を監査する。
- 6) 常任幹事は本会の会務を執行処理する。
- 7) 名誉会長、相談役および顧問は本会の諮問に応じる。

第8条 本会役員の任期は2年とする。ただし、重任を妨げない。

令和元年度 同窓会会費入金状況

平成31. 4. 1～令和2. 3. 31

卒 年	済	人員	終身会費	人員	年会費	卒 年	済	人員	終身会費	人員	年会費				
昭 11	59	0	0	0	0	57	236	2	40,000	5	10,000				
12	77	0	0	0	0	58	247	2	40,000	1	2,000				
13	76	0	0	0	0	59	413	0	0	0	0				
14	85	0	0	0	0	60	376	1	20,000	0	0				
15	93	0	0	0	0	61	393	3	60,000	0	0				
16	121	0	0	0	0	62	393	0	0	2	4,000				
17	142	0	0	0	0	63	424	1	20,000	0	0				
18	159	0	0	0	0	平 1	369	1	20,000	0	0				
19	126	0	0	0	0	2	404	0	0	0	0				
20 (5)	131	0	0	0	0	3	424	0	0	0	0				
20 (4)	124	0	0	0	0	4	440	0	0	0	0				
21・22	156	0	0	0	0	5	396	0	0	0	0				
23・24	241	0	0	0	0	6	436	0	0	0	0				
25	194	0	0	0	0	7	449	0	0	0	0				
26	208	0	0	0	0	8	484	0	0	0	0				
27	268	0	0	0	0	9	438	0	0	0	0				
28	269	0	0	0	0	10	429	0	0	0	0				
29	247	0	0	0	0	11	432	0	0	0	0				
30	253	0	0	0	0	12	394	0	0	0	0				
31	243	0	0	1	2,000	13	389	0	0	0	0				
32	261	1	20,000	6	12,000	14	396	0	0	0	0				
33	279	0	0	5	10,000	15	396	0	0	0	0				
34	263	3	60,000	10	20,000	16	402	0	0	0	0				
35	261	1	20,000	2	4,000	17	398	0	0	0	0				
36	274	1	20,000	5	10,000	18	397	0	0	0	0				
37	245	2	40,000	8	16,000	19	390	0	0	0	0				
38	235	0	0	5	10,000	20	390	0	0	0	0				
39	197	4	80,000	10	20,000	21	390	0	0	0	0				
40	269	1	20,000	5	10,000	22	390	0	0	0	0				
41	324	1	20,000	11	22,000	23	397	0	0	0	0				
42	302	2	40,000	11	22,000	24	393	0	0	0	0				
43	327	2	40,000	5	10,000	25	435	0	0	0	0				
44	289	3	60,000	10	20,000	26	402	0	0	0	0				
45	305	6	120,000	3	6,000	27	399	0	0	0	0				
46	268	1	20,000	1	2,000	28	433	0	0	0	0				
47	287	2	40,000	6	12,000	29	433	0	0	0	0				
48	241	2	40,000	0	0	30	398	0	0	0	0				
49	281	0	0	3	6,000	31	427	0	0	0	0				
50	287	2	40,000	5	10,000	合 計	25,183	57	1,140,000	139	278,000				
51	305	1	20,000	2	4,000	卒 業 生 会 費 計					1,418,000				
52	239	4	80,000	4	8,000	通 信					42,000				
53	217	2	40,000	3	6,000	定 時					30,000				
54	232	1	20,000	4	8,000	卒業生終身会費年会費合計					1,490,000				
55	239	2	40,000	2	4,000	令 2 年 卒 業 生 終 身 会 費								436	8,720,000
56	252	3	60,000	4	8,000	總 合 計							10,210,000		

修猷館同窓会役員名簿 (自二〇二〇年五月 至二〇二二年五月)

顧問	波多野聖雄 (S 26卒)	常任幹事	福泉 忠興 (S 59卒)
相談役	出光 芳秀 (S 31卒)	事務局長	中村 成克 (S 60卒)
名誉会長	久保田勇夫 (S 36卒)	理事	中本 純徳 (S 61卒)
会長	高島 孝一 (館長)	理事	松本 一範 (S 62卒)
副会長	川崎 隆生 (S 44卒)	理事	大野 慶樹 (S 63卒)
理事	伊藤 哲朗 (S 42卒)	理事	今泉 忠 (H 1卒)
理事	津田 純嗣 (S 44卒)	理事	三戸宗一郎 (H 2卒)
理事	西高辻信良 (S 47卒)	理事	花田由理子 (H 3卒)
常任幹事	大賀 啓史 (S 46卒)	理事	石橋 顕 (H 4卒)
事務局	田中 雅美 (S 50卒)	理事	能見 信二 (H 5卒)
常任幹事	川村 啓造 (S 40卒)	理事	党 智 (H 6卒)
理事	渡邊 章 (S 41卒)	理事	池下 智 (H 7卒)
理事	羽田野節夫 (S 42卒)	理事	田中 健吾 (H 8卒)
理事	松本 正隆 (S 43卒)	理事	峰 雅紀 (H 9卒)
理事	麻生 俊郎 (S 44卒)	理事	村上 弘 (H 10卒)
理事	森下七百枝 (S 45卒)	理事	石橋 知也 (H 11卒)
理事	鞍垣 吉政 (S 47卒)	理事	松尾 光泰 (H 12卒)
理事	黒木 篤 (S 48卒)	理事	赤司 雅之 (H 13卒)
理事	小柳 有美 (S 49卒)	理事	中村 道彦 (H 14卒)
理事	半田 敦士 (S 51卒)	理事	田元 有紀 (H 15卒)
理事	作間 功 (S 52卒)	理事	進藤 靖子 (通58卒)
理事	堤 勝也 (S 53卒)	理事	末安 竹一 (定27卒)
理事	菊池 政道 (S 54卒)	理事	上田 英友 (S 55卒)
理事	有岡 利康 (S 56卒)	理事	石田 淳子 (S 58卒)
理事	前田 隆 (S 57卒)		

各支部会長名簿

東京修猷会会長	伊藤 哲朗 (S 42卒)	熊本修猷会会長	井上 昌治 (S 51卒)
中京修猷会会長	嶋尾 正 (S 43卒)	宮崎修猷会会長	南嶋 洋一 (S 29卒)
近畿修猷会会長	芦原 直哉 (S 45卒)	鹿児島修猷会会長	吉村 望 (S 27卒)
北九州修猷会会長	津田 純嗣 (S 44卒)	沖縄修猷会会長	灰沢 英昭 (S 42卒)
佐賀修猷会会長	駒井 英基 (S 49卒)	東北修猷会会長	出納 克彦 (S 45卒)
長崎修猷会会長	中牟田真一 (S 41卒)	中国四国修猷会会長	河野 浩 (S 46卒)
大分修猷会会長	井上 正文 (S 44卒)		

あとがき

今回は各世代にわたる同窓生の皆さんから素晴らしい原稿をいただき誠にありがとうございました。

2020年は突如として世界中の誰もが予測し得なかった事態に陥りました。現在もその猛威を奮った新型コロナウイルスの第3波は世界中を襲っています。

その様な状況の中、見えないウイルスと懸命に戦い一人一人の患者に休みなく治療に従事している世界中の医療関係者の皆様には深く感謝の意を捧げます。

さて、余儀なく突然新しい生活様式を強いられた私たちは日々の生活の中で何を感ぜ、何を考えたのでしょうか？

各々の立場や状況において様々とは思いますが、多くの人は今後世の中どうなっていくのだろうか？私たちの生活や仕事はどの様に変わっていくのだろうか？と未来を予測したり不安を抱えたりする事もあるかと思えます。

しかし、未来を予測する事よりも「どんな未来にしたいか」という意志が大事でその為にどんな行動をしていくのか、という事の方が重要だと考えます。

未来は予想予測するものではなく、自分達の意志で素晴らしい未来を創り上げていくのが修猷生であり我々同窓生でありたいと願います。

昔我がその素晴らしい未来の一端をお届けする一助となれば編集員一同幸いです。

困難な状況だからこそ真のリーダーが生まれるチャンス、これからも館友のご活躍を期待しています。

いしばし記

2021 年度同窓会総会についてのご報告とご案内

今年の同窓会総会の幹事学年としてお手伝いさせていただきます、平成四年卒の朋猷会（ほうゆうかい）でございます。館友の皆様に同窓会のご報告とご案内を致します。

今年の同窓会総会は、WEB 上での同窓会総会開催を計画しております。コロナ禍の中、例年のように館友が一堂に会することは難しいと判断しました。

新たな試みではありますが、日頃それぞれの「猷」を進み、世のため、人のために尽くされている館友の皆様に、この日ばかりは、六光星を身に着けたあの頃の記憶の中にゆっくり浸り、それぞれの「修猷感」を感じる時間を過ごしていただきたい。そして、現在の館友それぞれの「猷」への活力にしていだけるような会にしたい。そんな気持ちを込めて、「あゝ修猷感～これが私の生きる猷」をテーマに準備を進めております。

同窓会総会開催日は、当初予定通り、2021 年 5 月 29 日（土）としますが、時間帯、内容等詳細につきましては、追って同窓会 HP でご案内いたします。

通常の同窓会総会を楽しみにされていた皆様におかれましては、大変心苦しい限りですが、諸般の事情に鑑み、何卒ご理解、ご協力よろしくお願いいたします。

また、同窓会総会に合わせて開催される OB ゴルフ大会は、以下の日時で、例年通りの開催を計画しております。

<同窓会総会>

日程：2021 年 5 月 29 日（土）

WEB 上で開催予定（詳細未定）

<OB ゴルフ大会>

日程：2021 年 5 月 30 日（日）

会場：福岡カンツリー倶楽部 和白コース

総会幹事：平成四年卒（朋猷会） 実行委員長 富安 孝成

修猷館同窓会誌

菁 莪

発行者 修猷館同窓会

福岡市早良区西新三丁目十二・十四
電話(〇九二)八二二―〇六六三
FAX(〇九二)八二二―〇六七二

代表者 川崎 隆生

発行日 令和三年一月三十一日

編集者 菁莪編集委員会

森下七百枝・鞍垣 吉政
小柳 有美・堤 勝也
石田 淳子・石橋 顕
能見 信二・田中 健吾
村上 弘

印刷 祥文社印刷株式会社



今年の同窓会総会の幹事学年としてお手伝いさせていただきます、平成四年卒朋猷会(ほうゆうかい)でございます。

今年の同窓会総会は、諸般の事情に鑑み、WEB上での開催を計画しております。
新たな試みではありますが、日頃それぞれの「猷」を進み、世のため人のために尽くされている館友の皆様、この日ばかりは、六光星を身に着けたあの頃の記憶の中にゆっくり浸り、それぞれの「修猷感」を感じる時間を過ごしていただきたい、そんな気持ちを込めて「あ・修猷感 ～これが私の生きる猷～」をテーマに準備を進めております。

2021年度 修猷館同窓会総会 実行委員会
 実行委員長 富安 孝成 (平成四年卒朋猷会)

＼WEB上で開催予定／ 詳細は改めてご案内いたします。

／例年通り開催予定／ 会場：福岡カンツリー倶楽部 和白コース

